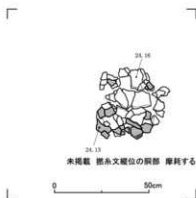
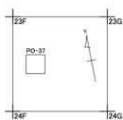
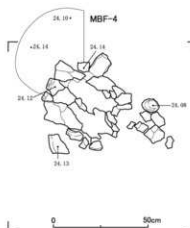
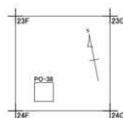


MBPO-37



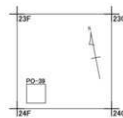
MBPO-38



MBPO-38・39 複合



MBPO-39



MBPO-40・41



MBPO-40

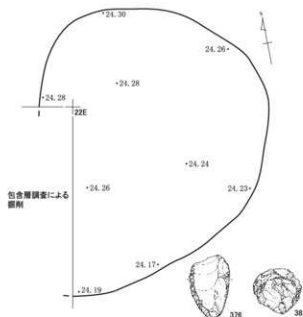


MBPO-41



図IV-114 MB (12)

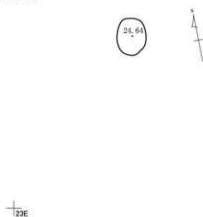
MBFC-1



MBFC-2



MBFC-3



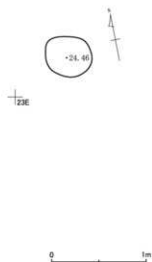
MBFC-4



MBFC-5

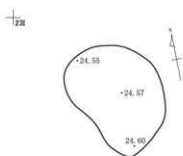


MBFC-6

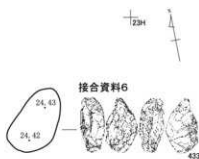


図IV-115 MB (13)

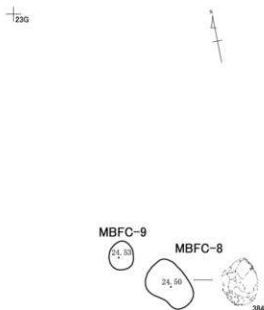
MBFC-7



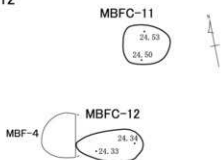
MBFC-10



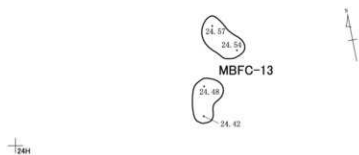
MBFC-8・9



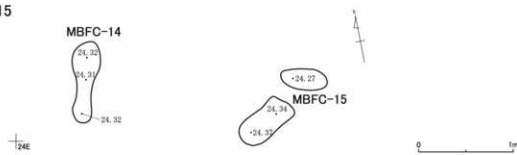
MBFC-11・12



MBFC-13

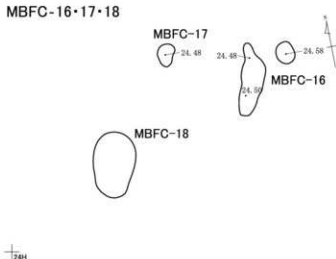


MBFC-14・15

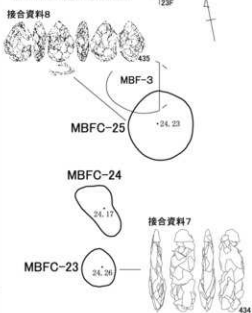


図IV-116 MB (14)

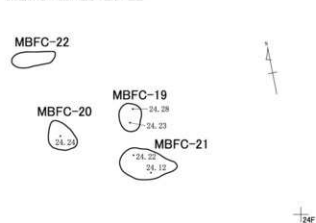
MBFC-16・17・18



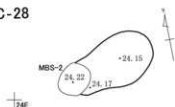
MBFC-23・24・25



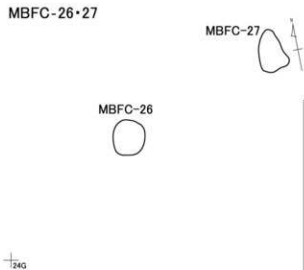
MBFC-19・20・21・22



MBFC-28



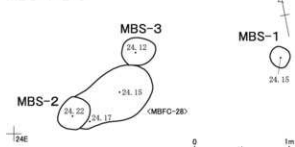
MBFC-26・27



MBFC-29

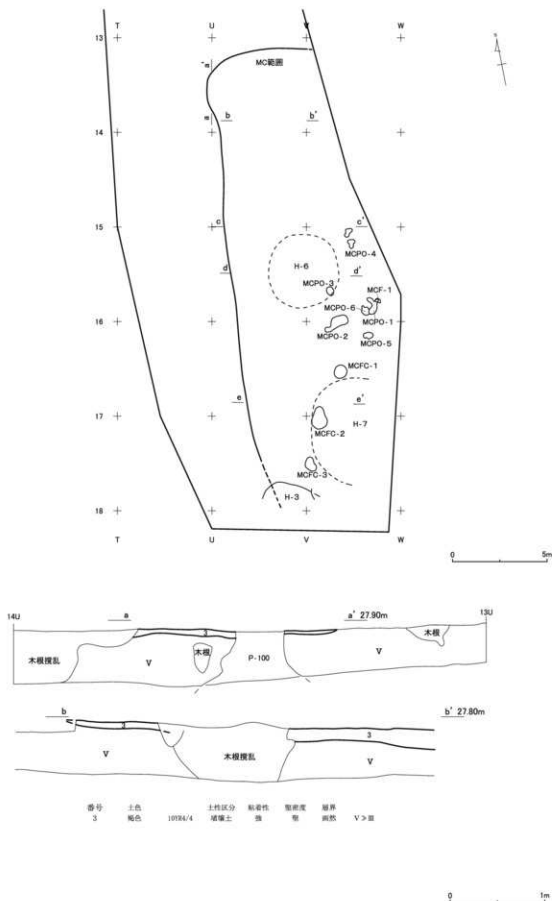


MBS-1・2・3



図IV-117 MB (15)

MC



図IV-118 MC(1)

MC F-1



MC F-1 a' 27.30m



表号 土色 土性区分 粘着性 容密度 層厚
1 褐色 7.0194/6 硬粘土 強 極 微細 粘土 炭化粉少量 磁土が混入

16W

0 1m

MCPO-1



0 1m

16W



0 50cm



349

MCPO-2

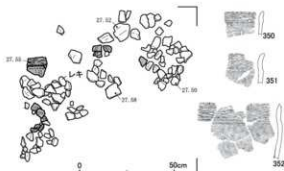


0 1m

16V



0 50cm



MCPO-3

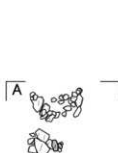


0 1m

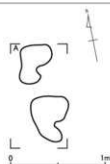
16V

MCPO-4

15V



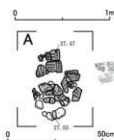
0 50cm



0 1m

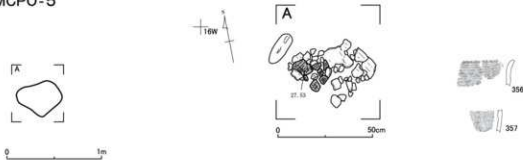


0 50cm

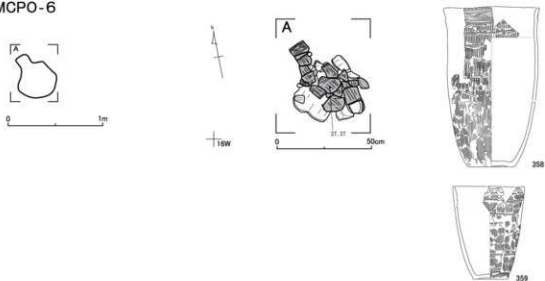


図IV-120 MC (3)

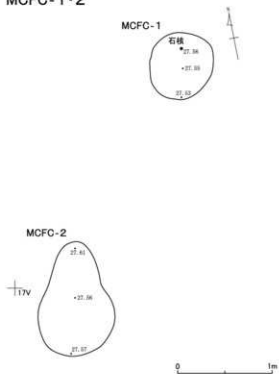
MCPO-5



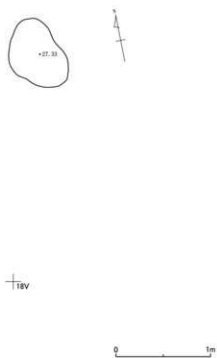
MCPO-6



MCFC-1・2



MCFC-3



図IV-121 MC(4)

一部みられるが、それ以外ではⅢ・Ⅳ層はほとんどみられず、Ⅲ・Ⅳ層を削平した後、盛土されたものと考えられる。

付属遺構 焼土 (MC F) 1 か所、土器集中 (MC PO) 6 か所、剥片集中 (MC FC) 3 か所を確認した。MC F-1 は土器集中 MC PO-1 の下層の盛土中で検出され、断面はレンズ状である。土器集中は H-6 と H-7 の間や H-6 西側などの遺物が最も多く出土した範囲で検出された。いずれもⅡ群 b 類土器の円筒土器下層 d 1 ~ d 2 式である。剥片集中 3 か所は盛土南側の H-7 周囲や上面で検出された。すべて頁岩製である。

遺物出土状況 遺物は H-6・7 周辺に多く分布し、Ⅱ群 b 類土器 4,913 点、Ⅳ群土器 1 点、焼成粘土塊 31 点、石鏃 3 点、両面調整石器 6 点、つまみ付きナイフ 8 点、スクレイパー 26 点、R フレイク 53 点、剥片 11,955 点、石核 52 点、磨製石斧 3 点、たたき石 4 点、すり石 4 点、扁平打製石器 5 点、原石 22 点、加工ある礫 2 点、礫 1,866 点、石製品 3 点など計 18,957 点出土した。Ⅱ群 b 類土器は円筒土器下層 d 1 式もあるが、円筒土器下層 d 2 式が主体である。なお器種別の点数分布図も作成した (図 V-1 ~ 4)。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。H-3・6・7、F-18 より新しい。MC PO-5 検出の炭化物 (Kor-32) について放射性炭素年代測定を行ったところ、 ^{14}C 年代が $4,830 \pm 30\text{yrBP}$ と、想定よりやや古い結果が出た。また樹種はシデ属イヌシデ節である (付篇参照)。

MD

位置 29 T・29 U・29 V・30 T・30 U・31 T・31 U・32 T・32 U

規模 (17.00) × (6.10) / 0.47 m

確認・調査 補償道路南側地区で、重機による表土除去時、10 ~ 15 cm 程度の黒色の攪乱土層を除去したところ、褐色 ~ 黄褐色を呈する土層が広範囲で検出された。当初は V 層面まで削平されていると考えたが、鋤簾等による清掃作業時に遺物が出土したため、盛土遺構の可能性を考え、南北方向に 28 ~ 32 ラインにかけてトレンチを設定し、掘り下げた。V 層上面に褐色土、黄褐色土層が堆積し、堅穴住居跡 H-8 の窪みにも同様の土層がみられ、遺物も出土したため盛土遺構と判断した。盛土は南北方向が 17 m、東西方向は 6 m の範囲であるが、北側以外は東西方向、南方向とも調査区外へ続いている。付属遺構はない。

土層 堅穴住居跡内以外を 11 層に分層した。上位に暗褐色土が一部みられるものの概ね V 層主体の褐色土、黄褐色土である。盛土は V 層上面に堆積するため、Ⅲ層黒色土、Ⅳ層漸移層を削平した後、盛土したものと考えられる。

遺物出土状況 遺物はⅡ群 b 類土器 1,966 点、焼成粘土塊 6 点、石鏃 2 点、つまみ付きナイフ 1 点、筒状石器 1 点、スクレイパー 2 点、R フレイク 3 点、剥片 1,332 点、石核 10 点、たたき石 1 点、すり石 1 点、扁平打製石器 3 点、石鏃 1 点、台石 1 点、石皿 5 点、原石 15 点、加工痕ある礫 2 点、礫 1,438 点など計 4,791 点出土した。土器や剥片など遺物の集中はなく、MB・MC に比し遺物は少ない。Ⅱ群 b 類土器は円筒土器下層 d 2 式が主体である。なお器種別の点数分布図も作成した (図 V-1 ~ 4)。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。H-8・10 より新しい。 (愛場)

表IV-1 堅穴住居跡と付属遺構の規模一覧(1)

遺構	調査区	外形 付属遺構 種別	平面形	規模 (m)				備考 1			
				礎石面		坑底面					
				長径	短径	長径	短径				
H-1	18 N・18 O	外形	楕円形	(2.81)	2.81	(2.73)	2.60	0.68	南北方向に長軸・北側の一部調査区外・中期後半		
		IF-1 伊路 石組部分 焼土部分	長方形 楕円形	0.50 0.40	0.45 0.29	— —	— —	— 0.05			
H-2	18 Q・18 R 19 Q・19 R	外形	不整形楕円形	5.03	4.41	4.75	3.87	0.80	南北方向に長軸 P-10・12・68 を切る。 俣土住居跡、中期後半		
		IF-1 伊路 石組部分 焼土部分	長方形 楕円形	0.68 0.60	0.55 0.42	— —	— —	— 0.20	住居跡長軸上、中央より南側		
		IF-2 覆土中焼土 覆土中焼土	楕円形 円形	0.45 0.38	0.33 0.37	— —	— —	— 0.08	焼失時の焼土・上部に炭化材		
		IF-3 柱穴	円形	0.18	0.17	0.12	0.11	0.27	住居跡北西側・底面平坦		
		IF-4 柱穴	円形	0.18	0.16	0.14	0.13	0.42	住居跡北東側壁面・底面平坦		
		IF-5 柱穴	楕円形	0.16	0.16	0.04	0.03	0.20	住居跡南側・底面やや凸る		
		H-3	17 U・17 V 18 U・18 V	外形	不整形楕円形	5.88	5.05	5.22	4.61	0.98	南北方向に長軸 東側に階段状遺構? 平成 29、30 年度調査 埴部分調査出来ず 前期後半
				IF-1 伊路入り込み	楕円形?	(0.60)	0.85	(0.39)	0.35	0.35	住居跡中央・底面平坦
				IF-2 柱穴	円形	0.53	0.21	0.50	0.23	0.50	住居跡南側壁面・底面平坦
				IF-3 柱穴	楕円形	0.32	0.23	0.28	0.16	0.25	住居跡東側壁面・底面平坦・階段状遺構? 部分
IF-4 柱穴	楕円形			0.39	0.33	0.11	0.10	(0.17)	住居跡東側壁面・底面平坦・階段状遺構? 部分		
IF-5 柱穴	楕円形	0.57	(0.37)	0.25	(0.16)	0.57	住居跡東側壁面・底面平坦・階段状遺構? 部分				
IF-6 柱穴	楕円形	0.18	0.11	0.10	0.08	0.38	住居跡南側・底面平坦、P9-1 に近接				
IF-7 柱穴	不整形	0.32	0.20	0.28	0.18	0.19	住居跡東側壁面・階段状遺構? 部分				
IF-8 柱穴	不整形	0.46	0.41	0.13	0.12	0.46	住居跡南側壁面・底面平坦・IS-1 下位				
IF-9 柱穴	円形	0.20	(0.13)	(0.08)	(0.06)	0.18	住居跡北側・底面断面丸み凸る				
IF-10 溝	—	0.56	0.05	—	—	—	IS-5 の南側				
IF-11 築石	—	0.33	0.22	—	—	—	IS-7 上位・棟柱礎				
階段状遺構	階段状遺構	不明	—	—	—	—	住居跡東側・出入口構造?				
H-4	21 Q・21 R 22 Q・22 R	外形	不整形楕円形	4.60	3.81	4.37	3.51	0.69	南北方向に長軸 中期後半		
		IF-1 伊路 石組部分 焼土部分	長方形 楕円形	0.56 0.44	0.48 0.36	— —	— —	— 0.70	住居跡長軸上、中央より南側		
		IF-2 柱穴	円形	0.54	0.48	0.43	0.41	0.43	住居跡長軸上、中央よりやや北側・底面平坦		
		IF-3 柱穴	円形	0.21	0.21	0.16	0.14	0.35	住居跡長軸上、南側壁面・底面平坦		
		IF-4 柱穴	円形	0.20	0.18	0.15	0.15	0.23	住居跡東側壁面・底面平坦		
		IF-5 柱穴	円形	0.13	0.10	0.08	0.06	0.12	住居跡北東側壁面・底部丸みを凸る		
		IF-6 柱穴	円形	0.19	0.16	0.14	0.13	0.24	住居跡西側壁面・底面平坦		
		H-5	21 J・21 K 22 J・22 K	外形	楕円形	4.98	4.49	4.63	4.24	0.42	南北方向に長軸・前期後半
				IF-1 伊路焼土	楕円形	0.86	0.57	—	—	0.17	住居跡長軸上、中央よりやや北側、掘り込み
				IF-2 覆土中焼土	不整形	0.26	0.17	—	—	0.04	住居跡北側壁面
IF-3 柱穴	円形			0.25	0.21	0.15	0.14	0.75	住居跡南側・主柱穴・底面平坦		
IF-4 柱穴	円形	0.29	0.28	0.19	0.18	0.65	住居跡北西側・主柱穴・底面平坦				
IF-5 柱穴	円形	0.25	0.23	0.15	0.15	0.71	住居跡南側・主柱穴・底面平坦				
IF-6 柱穴	円形	0.26	0.26	0.11	0.09	0.41	住居跡北東側・主柱穴・底面平坦				
IF-7 柱穴(砂ビット)	円形	0.16	0.13	0.09	0.08	0.22	HF-1 北東側・底面平坦				
IF-8 柱穴(砂ビット)	円形	0.16	0.14	0.09	0.08	0.24	HF-1 北東側・底面平坦				
IF-9 柱穴(砂ビット)	円形	0.15	0.15	0.08	0.08	0.28	HF-1 北東側・底面丸みを凸る				
H-6	15 U・15 V	外形	円形	3.90	3.77	3.66	3.34	0.48	盛土遺構にて埋まる・前期後半		
		IF-1 伊路 (掘り込み)	楕円形	0.77	0.70	0.49	0.44	0.09	住居跡中央・炭化材あり		
		IF-2 柱穴	円形	0.20	(0.10)	0.09	(0.04)	0.72	住居跡南側壁面・底面丸みを凸る		
		IF-3 柱穴	円形	0.18	(0.09)	0.10	(0.05)	0.63	住居跡北東側壁面・底面丸みを凸る		
		IF-4 柱穴	円形	0.14	(0.08)	0.09	(0.05)	0.58	住居跡北西側壁面・底面丸みを凸る		
IF-5 柱穴	円形	0.23	(0.15)	0.12	(0.08)	0.77	住居跡南側壁面・底面丸みを凸る				
H-7	16 V・17 V	外形	楕円形? 円形?	5.57	(2.15)	5.41	(2.02)	0.81	住居跡北西側部分を調査、南東側調査区外・前期後半		
		IF-1 柱穴	円形	0.33	(0.07)	0.08	(0.05)	0.65	住居跡北西側・底面丸みを凸る		
		IF-2 柱穴	円形	0.35	(0.14)	0.20	(0.12)	0.64	住居跡南側・底面平坦		
		IF-3 柱穴	楕円形	0.39	(0.16)	0.22	(0.10)	0.46	住居跡南側・底面平坦・埋め戻し		
		IF-4 柱穴?	円形	0.28	(0.15)	0.18	(0.08)	0.12	住居跡南側・底面平坦・浅い		
		IF-5 柱穴	円形	0.29	(0.16)	0.17	(0.11)	0.51	住居跡北西側・底面平坦・埋め戻し		
IF-6 柱穴	円形	0.27	(0.19)	0.19	(0.12)	0.56	住居跡南側・底面丸みを凸る、埋め戻し				
H-8	30 U・31 U	外形	楕円形? 円形?	6.08	(2.86)	5.97	(2.70)	0.83	住居跡北西側部分を調査、南東側調査区外・前期後半		
		IF-1 砂ビット	円形	0.20	0.18	0.12	0.11	0.08	住居跡中央付近・底面丸みを凸る		
		IF-2 砂ビット	円形	0.16	0.14	0.10	0.10	0.10	住居跡中央付近・底面平坦・砂充填		
		IF-3 砂ビット	円形	0.16	0.15	0.13	0.14	0.08	住居跡中央付近・底面平坦・砂充填		
		IF-4 柱穴	円形	0.21	(0.13)	0.17	(0.10)	0.48	住居跡北側・底面平坦		
		IF-5 柱穴	円形	0.34	(0.17)	0.20	(0.08)	0.10	住居跡南側・底面平坦・浅い		

表IV-1 堅穴住居跡と付属遺構の規模一覧(2)

遺構	調査区	外形 付属遺構 種別	平面形	規模 (m)				備考 1					
				確認面		坑底面							
				長径	短径	長径	短径						
H-9	9 S・9 T 10 S・10 T 10 U・11 T	外形	隅丸長方形	8.57	(5.80)	8.33	(5.75)	1.02	北西・南東方向に長軸・大型・ベンチ構造 ベンチ内：7.28×(5.28) / 7.04×(5.18)、前期後半 住居跡中央・浅皿状の掘り込み・HP-1 南東側 掘り込みに上部に2層みられる 上面に焼土、土間に砂層がある				
			HP-1 伊勢	掘り込み部分	不整形	1.13	1.05	0.96		0.88	0.10		
				壁土下	楕円形	0.61	(0.32)	—		—	—		
				掘り込み部分	楕円形	0.47	(0.18)	0.39		(0.15)	0.27		
				HP-1	壁に関連	隅丸長方形	0.70	0.64		0.52	0.36	0.76	
					ISF-1	柱穴	円形	0.30		(0.18)	0.15	(0.10)	0.60
					ISF-2	柱穴	楕円形	0.41		(0.17)	0.24	(0.13)	0.69
					ISF-3	柱穴	楕円形	0.48		(0.16)	0.26	(0.08)	0.84
					ISF-4	柱穴	楕円形	0.36		(0.22)	0.14	(0.11)	0.73
					ISF-5	柱穴	円形	0.31		(0.19)	0.17	(0.12)	0.94
					ISF-6	柱穴?	円形	0.33		(0.18)	0.23	(0.09)	0.08
					ISF-7	柱穴	円形	0.32		(0.15)	0.20	(0.19)	0.16
					ISF-8	柱穴	円形	0.40		(0.19)	0.40	(0.17)	0.76
ISF-9	柱穴	円形	0.28		(0.12)	0.18	(0.08)	0.56					
ISF-10	柱穴	円形	0.27		(0.10)	0.16	(0.10)	0.55					
ISF-11	柱穴?	楕円形	0.36		(0.14)	0.23	(0.10)	0.08					
ISF-12	柱穴?	円形	0.33	(0.18)	0.18	(0.10)	0.11						
ISF-13	柱穴	不整の円形	0.27	(0.13)	0.23	(0.07)	0.57						
H-10	31 U・32 U	外形	不明	(2.01)	(0.35)	(1.92)	(0.29)	0.55	調査区南端・北西角の壁跡を調査、前期後半				

表IV-2 土坑と付属遺構の規模一覧(1)

通称	調査区	土坑 フラスコ	平面形 (フラスコは 底面)	規模 (m)				深さ	竹炭層厚 (m) 確認面長軸×短軸 / 坑底面長軸×短軸	備考
				確認面		坑底面				
				長径	短径	長径	短径			
P-1	21・22 U 21・22 V	フラスコ	不整の円形	2.10	1.90	2.78	2.67	2.12	なし	中層 1.81×1.66 m
P-2	20 U	フラスコ	不整の楕円形	1.85	1.47	2.21	2.04	1.99	PP-1 (0.90×0.52/0.18) PP-2 (0.35×0.21/0.14) PP-3 (0.40×0.23/0.05)	中層 1.61×1.20 m
P-3	20 U	フラスコ	不整の楕円形	2.10	1.85	2.06	1.85	2.13	PP-1 (0.28×0.27/0.20×0.17/0.11)	中層 1.22×1.20 m
P-4	21 R・21 Q	フラスコ	楕円形	1.05	0.90	2.03	1.86	1.25	PP-1 (0.23×0.22/0.20×0.16/0.15)	中層 0.79×0.77 m
P-5	21 U	フラスコ	円形	(0.62)	0.54	1.26	1.30	1.20	PP-1 (0.24×0.21/0.20×0.18/0.21)	
P-6	19 S・19 R	フラスコ	不整の楕円形	2.12	(1.34)	2.46	2.12	1.29	PP-1 (2.40×2.20/0.19/0.12/0.12)	中層 1.55×1.11 m
P-7	23 R	フラスコ	円形	1.37	(0.68)	2.44	2.37	1.18	PP-1 (0.28×0.26/0.20×0.19/0.10)	中層 0.86×(0.44) m
P-8	18 P・19 P	フラスコ	円形	1.37	1.28	2.12	1.94	1.16	PP-1 (0.26×0.23/0.18×0.18/0.11) PP-1 (0.31×0.30/0.21×0.20/0.13) PP-1 (0.83×0.15/0.77×0.08)	中層 1.08×0.83 m
P-9	19 O	フラスコ	円形	1.07	0.98	2.48	2.35	1.64	PP-2 (1.08×0.20/1.00×0.12) PP-3 (0.09×0.17/1.02×0.08) PP-4 (1.02×0.16/0.83×0.07)	中層 0.73×0.59 m
P-10	19 Q	フラスコ	楕円形	2.29	2.15	2.22	2.02	0.28	なし	坑底面付着
P-11	20 R	土坑	円形	1.60	1.58	1.20	1.19	0.64	なし	
P-12	19 Q	フラスコ	円形	0.86	0.71	2.18	2.07	0.74	PP-1 (0.16×0.15/0.11/0.09/0.07)	開口部付－2に附着
P-13	19 M・19 N	土坑	円形	2.03	1.99	1.80	1.78	0.87	なし	壁面着
P-14	19 T・19 U	フラスコ	円形	0.83	(0.73)	2.15	2.08	1.57	PP-1 (2.16×0.23/2.02×0.10/0.09)	中層 0.43×(0.33) m
P-15	18 U・19 U	フラスコ	円形	1.00	(0.72)	2.00	1.97	1.78	PP-1 (0.43×0.39/0.32×0.25/0.13) PP-1 (0.34×0.27/ー)	
P-16	18 T	フラスコ	円形?	1.51	(0.74)	1.88	(1.00)	1.10	PP-1 (0.33×0.33/0.23×0.21/0.06) PP-1 (1.30×0.70/ー) PP-2 (0.48×0.28/ー)	南側トレンチで削平
P-17	19 M・19 N	フラスコ	円形	1.28	(0.70)	2.30	2.30	1.65	PP-1 (0.37×0.25/ー) PP-1 (2.0×0.15×0.14/ー) PPC-2 (0.35×0.19/ー)	中層 1.06×(0.51) 炭化物のまより
P-18	21 Q	土坑	楕円形?	(0.79)	1.23	(0.70)	0.87	0.37	なし	H-4直接
P-19	19 Q・20 Q	フラスコ	楕円形	0.82	0.74	2.27	2.06	0.97	織のまより (0.18×0.18)	
P-20	20 R・20 S 21 S	フラスコ	不整の楕円形	1.13	0.99	3.20	2.35	0.29	PP-1 (2.36×0.19/2.07×0.17/0.05)	
P-21	18・19 K 18・19 L	フラスコ	楕円形	1.00	(0.90)	2.48	2.17	1.33	PP-1 (0.28×0.15/0.18×0.15/1.22) PPC-1 (0.87×0.56/0.04)	中層 0.70×(0.30) m P-15近接 PP-1覆土上
P-22	21 S・21 T	フラスコ	円形	1.54	1.01	2.14	2.05	1.33	炭化材範囲 (ー)	開口部西にかたなる P-45を切る
P-23	17 Q・18 Q	フラスコ	楕円形	0.86	0.68	2.56	2.17	1.62	PP-1 (0.46×0.44/0.32×0.32/0.16) PP-2 (0.38×0.30/0.20×0.14/0.30) PP-1 (0.63×0.55/0.10)	中層 0.38×0.33 細い
P-24	18 L・19 L	フラスコ	円形	0.93	0.81	2.42	2.30	1.40	PP-1 (0.19×0.17/0.12×0.10) PP-1 (1.05×0.60/0.89×0.04) PPC-1 (0.46×0.44/0.13) PP-1 (1.5×0.7/ー)	中層 0.60×0.54 炭化材範囲、坑底焼

表IV-2 土坑と付属遺構の規模一覧(2)

遺構	調査区	土坑 フラスコ	平面形 (フラスコは 底面)	規模 (m)				深さ	付属遺構 (m)	備考
				確認面 長径	確認面 短径	坑底面 長径	坑底面 短径		確認面長軸×短軸 / 深さ	
P-25	18 J	フラスコ	楕円形	(0.88)	(0.88)	1.98	1.79	1.24	PP-1 (0.37 × 0.36/0.23 × 0.23/0.11) PP-2 (0.25 × 0.21/0.15 × 0.12/0.04) PD-1 (0.54 × 0.11/0.52 × 0.06/—) PPC-1 (0.28/0.08) 平面図なし	開口部削平
P-26	19 J・20 J	土坑	楕円形	1.05	0.92	0.80	0.67	0.24	なし	内部に SP-5
P-27	19 I	土坑	楕円形	(1.10)	1.01	0.86	0.70	0.19	なし	内部に SP-122
P-28								欠番		
P-29	21 S・22 S	フラスコ	楕円形	1.05	(0.52)	2.40	2.23	1.06	PP-1 (0.35 × 0.28/0.24 × 0.20/0.08) PD-1 (0.45 × 0.05/0.43 × 0.02/—) PD-2 (0.82 × 0.13/0.74 × 0.07/0.05) PD-3 (1.03 × 0.12/0.99 × 0.05/—)	PP-1 は覆土下位 P-45と切り F-15近接
P-30	23 T	フラスコ	楕円形	(0.65)	(0.75)	2.13	1.94	1.11	PP-1 (0.44 × 0.40/0.27 × 0.25/0.17) PP-2 (0.18 × 0.18/0.09 × 0.04/0.20) PP-3 (0.24 × 0.21/0.09 × 0.06/0.21) PP-4 (0.16 × 0.11/0.06 × 0.05/0.18) PP-5 (0.10 × 0.10/0.04 × 0.02/0.12) PP-6 (0.13 × 0.12/0.03 × 0.03/0.18) PP-7 (0.12 × 0.12/0.04 × 0.04/0.16) PP-8 (0.20 × 0.12/0.08 × 0.04/0.36) PP-9 (0.11 × 0.10/0.03 × 0.03/0.12) PP-10 (0.10 × 0.10/0.03 × 0.02/0.11) PD-1 (1.07 × 0.28/1.03 × 0.17/—) PD-2 (0.82 × 0.22/0.79 × 0.13/—) PD-3 (0.42 × 0.09/0.39 × 0.05/—) PD-4 (0.33 × 0.08/0.29 × 0.04/—) PP-1 (0.38 × 0.38/0.24 × 0.22/0.15) PP-1 (0.48 × 0.29/—)	P-37 近接
P-31	23 R・23 S	フラスコ	楕円形	1.06	(0.49)	2.53	2.36	1.04		
P-32	18 L・18 M	フラスコ	楕円形	1.10	0.80	2.52	2.24	1.35		中層 0.62 × 0.59 m PP-1 は小土坑 PP-2 ~ 10 は壁柱穴
P-33	19 P・19 Q	フラスコ	不整の楕円形	0.55	0.54	2.38	2.12	1.24		
P-34	18 L	土坑	楕円形	1.34	1.16	1.12	0.99	0.43	なし	
P-35	20 K・20 L	土坑	楕円形	0.89	0.78	0.48	0.45	0.47	なし	
P-36	22 R・22 S	フラスコ	円形	0.69	(0.33)	2.11	2.10	1.58	PP-1 (0.35 × 0.30/0.25 × 0.19/0.27) PP-1 (0.34 × 0.29/0.25 × 0.24/0.08)	P-60 近接 P-59 と切り合い P-30 近接
P-37	23 S・23 T	フラスコ	円形	0.74	—	2.73	2.56	1.42		
P-38	18 P	フラスコ	不整の円形	1.80	1.44	2.65	2.55	1.47	PP-1 (0.25 × 0.23/0.07 × 0.05/0.61) PP-2 (0.37 × 0.32/0.37 × 0.21) PD-1 (0.86 × 0.18/0.78 × 0.04) PD-2 (1.25 × 0.18/1.17 × 0.11)	産土掘出土
P-39	22 S・22 T	フラスコ	円形	—	—	2.20	1.97	1.50	PP-1 (0.39 × 0.35/0.21 × 0.20/0.06) PP-1 (0.35 × 0.32/0.23 × 0.19/0.14) PD-1 (0.75 × 0.18/0.75 × 0.08/0.10) PD-2 (1.07 × 0.25/0.10 × 0.08/0.07) PP-1 (0.26 × 0.25/0.07 × 0.06/0.12)	P-55・70 と切り合い 埋設土器 2 と近接
P-40	18 R	フラスコ	不整の楕円形	1.09	(0.65)	0.85	(0.56)	1.84		中層 0.85 × (0.56)
P-41	18 Q・18 R	フラスコ	楕円形	(2.00)	(0.48)	2.51	2.14	1.90		
P-42	18 R・19 J 19 K	フラスコ	楕円形	1.50	(1.00)	1.60	1.45	1.17	なし	F-16 近接
P-43	20 K	フラスコ	楕円形	(1.14)	(1.00)	1.49	1.26	0.63	PP-1 (0.15 × 0.14/0.10 × 0.08/—) PP-2 (0.19 × 0.16/0.09 × 0.07/—) PP-3 (0.18 × 0.14/0.08 × 0.08/—) PP-4 (0.11 × 0.08/0.05 × 0.04/—) PD-1 (0.95 × 0.21/0.74 × 0.12/0.14)	PP-4 は PD-1 内
P-44	21 S・22 S	土坑	楕円形	(1.12)	(0.64)	(0.75)	(0.57)	0.46	なし	P-29 が切る
P-45	21 S	フラスコ	楕円形	1.27	(0.60)	(1.88)	1.89	0.92	なし	P-22 に切られる F-14 開口部へ覆土中
P-46	20 R・20 S 21 R・21 S	フラスコ	楕円形	1.24	(0.34)	2.52	(1.77)	1.12	PP-1 (0.30 × 0.29/0.15 × 0.15/0.12)	P-48 に切られる F-1 近接
P-47	23 R	土坑	円形	0.67	(0.30)	0.40	(0.21)	0.38	なし	P-38 と切り合い
P-48	21 R・21 S	フラスコ	楕円形	0.91	(0.36)	1.71	1.44	1.18	なし	P-46 を切る
P-49	20 R・20 S	フラスコ	楕円形	1.06	—	(1.00)	1.28	0.86	PP-1 (0.42 × 0.39/0.33 × 0.29/0.08) PP-1 (0.26 × (0.12) /0.19)	P-61 と切り合い SP-134 と近い
P-50	19 L・19 M	フラスコ	楕円形	1.19	(0.46)	1.72	(0.65)	1.08		中層 0.67 × (0.42) 埋設土器 1 開口部
P-51	19 O・20 O	フラスコ	円形	0.77	(0.39)	1.52	(0.70)	0.68	なし	
P-52	19 R	フラスコ	楕円形	1.68	(0.44)	1.61	1.40	1.33	なし	
P-53	19 R・19 S 20 R・20 S	フラスコ	円形	1.70	(0.77)	2.44	2.49	1.80	PP-1 (1.04 × 0.58/—) PPC-1	中層 1.22 × (0.52) 埋設土器 4 覆土上位
P-54	19 S	フラスコ	円形	1.12	—	2.84	2.75	2.17	PP-1 (2.93 × 0.29/2.82 × 0.11/0.15)	
P-55	22 S・22 T	フラスコ	楕円形	1.43	—	(2.27)	2.12	1.30		P-56 と切り合い
P-56	S 22	フラスコ	楕円形	(1.38)	1.12	2.07	1.82	0.95	なし	P-55 と切り合い
P-57	19 S	フラスコ	円形	2.30	1.70	1.71	1.63	1.68	なし	中層 1.38 × 1.24
P-58	23 R・23 S	フラスコ	楕円形	1.21	—	2.45	2.33	1.60	なし	P-31・42 と切り合い
P-59	23 S	フラスコ	円形	1.10	(0.54)	1.60	(0.66)	1.08	なし	P-37 と切り合い
P-60	22 R・22 S	フラスコ	円形	0.87	(0.50)	2.18	2.11	1.46	PP-1 (0.31 × 0.30/0.24 × 0.20/0.15) PP-2 (0.61 × 0.30/0.46 × 0.15/—)	SP-139 と切り合い P-36 と近い
P-61	21 R・21 S	フラスコ	楕円形	—	—	1.84	1.61	1.09	なし	P-48 と切り合い
P-62	19 L・20 L	フラスコ	楕円形	—	—	2.30	2.14	1.57	PP-1 (0.27 × 0.23/0.21 × 0.19/0.14) PP-1 (0.42 × 0.34/0.13)	中層 0.48 × 0.23 m 間 小砂利のままり 盆状の産製品

表IV-2 土坑と付属遺構の規模一覧(3)

遺構	調査区	土坑 フラスコ	平面形 (フラスコは 底面)	規模(m)				深さ	付属遺構(m)		備考
				確認面 長径	確認面 短径	坑底面 長径	坑底面 短径		確認面長軸×短軸 / 深さ	坑底面長軸×短軸 / 深さ	
P-63	18 N	土坑	円形	2.63	2.56	2.09	2.09	0.68	PP-1 (0.33 × 0.33/0.26 × 0.25/0.23)	なし	フラスコ
P-64	19 R・19 S	フラスコ	不整の内形	1.54	1.22	1.86	1.66	1.23	なし	なし	中層 0.88 × (0.68)
P-65	19 N	フラスコ	円形	0.75	0.69	1.93	2.04	1.05	PP-1 (1.82 × 0.23/1.68 × 0.15/0.08)	なし	
P-66	18 N・18 O 19 N	フラスコ	楕円形	(0.70)	1.12	2.51	2.38	1.53	PP-1 (0.24 × 0.22/0.18 × 0.17/0.09)	なし	
									PP-10 (0.83 × 0.18/0.78 × 0.11/0.04)	なし	
									PP-2 (0.73 × 0.14/0.70 × 0.07/0.07)	なし	中層 (0.60) × 0.59 m
P-67	18 O	フラスコ	円形	0.49	(0.28)	2.10	2.02	1.18	PP-3 (0.68 × 0.14/0.63 × 0.19/0.07)	なし	
									PP-1 (0.78 × (0.37)/0.61 × (0.31)/0.48)	なし	PP-1 開口部近く
P-68	19 Q・19 R	フラスコ	楕円形	1.25	(0.49)	1.96	1.79	1.25	PP-1 (0.75 × (0.42)/0.36 × (0.18)/0.46)	なし	中層 0.41 × (0.18) m
									PP-1 (1.30 × 0.71/0.07)	なし	PP-1 開口部に近接炭化材範囲
P-69	22 S・23 S	フラスコ	円形	1.50	(0.56)	2.09	2.00	1.52	PP-2 (1.02 × 0.34/0.07)	なし	P-70 と切り合い
P-70	22 S	フラスコ	円形	—	—	2.16	2.08	1.08	PP-10 (0.53 × 0.44/0.28 × 0.26/0.10)	なし	P-29・56・69 と切り合い
P-71	23 S	フラスコ	不明	—	—	—	—	(0.56)	不明	不明	調査区南境の断面
P-72	19 Q・19 R 20 Q・20 R	フラスコ	楕円形	1.22	1.11	2.03	1.84	1.42	PP-1 (0.34 × 0.34/0.24 × 0.24/0.18)	なし	
									PP-1 (0.35 × 0.30/0.03)	なし	PP-2 は PP-1 底面
P-73	23 S	フラスコ	円形	0.94	—	2.40	(1.30)	1.70	PP-2 (0.25 × 0.25/0.03)	なし	
									PP-1 (0.68 × 0.53)	なし	
P-74	21 T・22 T 21 P	フラスコ	円形	0.93	(0.52)	2.21	2.17	1.95	PP-1 (0.30 × 0.23/0.18 × (0.17)/0.20)	なし	P-58・73 と切り合い
									PP-2 (0.39 × 0.17/0.34 × 0.08/0.07)	なし	
P-75	21 P	フラスコ	楕円形	0.52	(0.34)	1.72	1.57	1.11	PP-2 (0.27 × 0.13/0.23 × 0.06/0.06)	なし	炭化材範囲
									PP-1 (0.41 × 0.38/0.26 × 0.28/0.22)	なし	
P-76	18 Q	フラスコ	円形	1.01	(0.78)	1.81	(1.27)	1.01	PP-1 (0.28 × 0.24/0.19 × 0.14)	なし	
									PP-1 (0.88 × 0.12/0.83 × 0.04)	なし	PP-1 は PP-2 底面
P-77	23 R	フラスコ	円形	0.93	(0.48)	2.62	2.52	1.55	PP-2 (0.66 × 0.10/0.60 × 0.02)	なし	
									PP-1 (0.28 × 0.10/0.07)	なし	
P-78	23 R	フラスコ	円形	0.93	(0.48)	2.62	2.52	1.55	PP-1 (0.60 × 0.51/0.27 × 0.25/0.14)	なし	
P-79	21 O・21 P	土坑	楕円形	2.15	1.49	1.73	0.92	0.40	なし	なし	
P-80	20 O・21 O	フラスコ	円形	1.46	1.08	1.39	1.33	0.53	PP-1 (0.16 × 0.09/0.10 × 0.06/0.15)	なし	
P-81	21 N・22 N	フラスコ	楕円形	1.31	(0.73)	2.26	2.12	2.28	PP-1 (0.18 × 0.16/0.13 × 0.11/0.14)	なし	炭化物範囲
P-82	21 L・21 M 22 L・22 M	フラスコ	円形	1.50	(0.57)	2.16	2.10	1.24	PP-1 (0.21 × 0.16/0.07)	なし	
P-83	22 I	フラスコ	楕円形	1.38	(0.81)	1.88	1.65	0.83	PP-1 (0.22 × 0.21/0.12 × 0.12/0.08)	なし	M B 範囲
									PP-1 (0.56 × 0.28/0.05)	なし	
P-84	22 I・22 J	土坑	楕円形	1.63	1.33	1.50	1.23	0.66	PP-1 (0.23 × 0.19/0.15 × 0.09/0.20)	なし	
									PP-1 (0.76 × 0.19/0.73 × 0.06/0.07)	なし	壁垂直・M B 範囲
P-85	20 P	土坑	不整の楕円形	3.03	1.89	2.78	1.65	0.65	PP-2 (0.40 × 0.15/0.36 × 0.10/0.07)	なし	
P-86	22 I・22 N	土坑	楕円形	2.30	1.83	2.04	1.55	0.64	PP-1 (0.15 × 0.14/0.10 × 0.08/0.12)	なし	壁垂直に近い
P-87	22 N	フラスコ	不整の内形	1.00	(0.34)	1.55	1.45	0.74	PP-1 (0.29 × 0.24/0.16 × 0.15/0.15)	なし	P-94 と切り合い
P-88	20 L・21 L	フラスコ	円形	1.29	1.22	2.54	2.39	1.24	PP-1 (0.38 × 0.37/0.19 × 0.20/0.30)	なし	
									PP-1 (1.18 × 0.22/1.15 × 0.10/0.12)	なし	
P-89	22 M・23 M	フラスコ	円形	1.18	—	2.02	1.92	1.10	PP-2 (0.88 × 0.22/0.85 × 0.11/0.13)	なし	
									PP-3 (1.05 × 0.20/1.09 × 0.12/0.07)	なし	
P-90	22 L	フラスコ	円形	1.04	(0.48)	1.36	1.30	1.08	PP-1 (0.51 × 0.26/0.07)	なし	
P-91	21 L	フラスコ	円形	1.11	(0.50)	2.20	(1.92)	1.04	PP-1 (0.58 × 0.36/0.36 × 0.38/0.10)	なし	
P-92	22 K・22 L	フラスコ	円形	1.35	(0.82)	1.95	1.87	1.00	なし	なし	
P-93	23 K・23 L	フラスコ	円形	1.00	(0.58)	1.61	1.49	1.24	PP-1 (0.27 × 0.22/0.21 × 0.14/0.12)	なし	中層 0.79 × (0.49)
P-94	22 M・22 N 23 M・23 N	フラスコ	楕円形	0.92	(0.50)	2.14	1.94	1.08	PP-1 (0.83 × 0.15/0.76 × 0.10/0.09)	なし	
									PP-2 (1.03 × 0.18/0.94 × 0.09/0.09)	なし	PP-1 ~ 4 十字状を4分折して計測
P-95	21 M・22 M 22 N	フラスコ	楕円形	0.79	(0.50)	2.19	2.00	0.94	PP-3 (1.07 × 0.20/1.04 × 0.13/0.08)	なし	
									PP-4 (0.80 × 0.16/0.73 × 0.19/0.07)	なし	
P-96	22 I・23 H 23 I	土坑	楕円形	1.96	1.75	1.66	1.57	0.23	PP-1 (0.35 × 0.30/0.21 × 0.13/0.11)	なし	
P-97	21 L	フラスコ	円形	—	—	1.82	(1.15)	0.97	PP-1 (1.07 × 0.57/0.03)	なし	M B 範囲
P-98	11 U・12 U	フラスコ	円形	1.33	1.27	2.19	(1.16)	1.60	PP-1 (0.28 × 0.22/0.22 × 0.16/0.05)	なし	P-91 に切られる
P-99	12 T	フラスコ	楕円形	0.91	0.73	1.14	1.02	0.42	なし	なし	中層 0.99 × 0.90
P-100	13 T・13 U	フラスコ	楕円形	0.91	(0.40)	1.30	1.55	0.88	PP-1 (1.53 × 0.22/1.48 × 0.18/0.09)	なし	小型
P-101	13 T・14 T	フラスコ	円形	0.91	0.78	2.07	1.94	1.39	なし	なし	P-102 と近接
P-102	13 T	フラスコ	楕円形	0.84	(0.41)	1.59	1.40	0.86	なし	なし	P-100 と近接
P-103	24 U・24 V	フラスコ	楕円形	1.09	(0.59)	2.08	1.88	1.98	PP-1 (0.52 × 0.50/0.36 × 0.35/0.10)	なし	
P-104	24 U	フラスコ	不明	1.12	(0.54)	—	—	(0.63)	不明	不明	下位は調査していない

表IV-3 小土坑の規模一覧(1)

遺構	調査区	平面形	底面 断面形	規模 (m)					備考
				確認面		坑底面		深さ	
				長径	短径	長径	短径		
SP-1	19K・20K	楕円形	平坦	0.84	(0.48)	0.27	0.27	0.86	2つの小土坑
SP-2	19K	楕円形	丸み	0.67	0.61	0.18	0.17	0.69	
SP-3	19K・20K	円形	丸み	0.31	(0.23)	0.14	0.11	0.36	SP-1と接する
SP-4	19K・20K 19L・20L	楕円形	丸み	0.24	(0.20)	0.12	0.12	0.61	SP-1と接する
SP-5	19J・20J	不整形	尖る	0.44	0.35	0.13	0.12	0.51	P-26を切る
SP-6	19K	楕円形	丸み	0.74	0.72	0.13	0.12	0.75	2つの小土坑
SP-7	20H	円形	平坦	0.26	0.25	0.16	0.16	0.50	
SP-8	20H	楕円形	平坦	0.44	0.35	0.30	0.26	0.36	
SP-9	20H	楕円形	丸み	0.25	0.22	0.15	0.13	0.25	
SP-10	20H・20I	楕円形	丸み	0.36	0.26	0.18	0.14	0.18	
SP-11	20H・20I	円形	平坦	0.28	0.26	0.18	0.16	0.41	
SP-12	20I	円形	丸み	0.23	(0.18)	(0.14)	0.13	0.10	
SP-13	20I	不整形	丸み	0.24	0.21	0.12	0.11	0.11	
SP-14	20I	楕円形	丸み	0.52	0.43	0.33	0.30	0.34	
SP-15	20I	楕円形	丸み	0.30	0.24	0.16	0.15	0.13	
SP-16	20I	楕円形	丸み	0.33	0.27	0.17	0.16	0.51	SP-17と接する
SP-17	20I	円形	丸み	0.21	(0.18)	0.13	0.12	0.11	SP-16と接する
SP-18	20I	円形	丸み	0.21	0.20	0.12	0.12	0.10	
SP-19	20I	円形	丸み	0.26	0.24	0.15	0.14	0.09	SP-21と接する
SP-20	19I・20I	円形	丸み	0.27	0.26	0.14	0.13	0.20	SP-21と接する
SP-21	19I・20I	楕円形	丸み	0.49	(0.25)	0.29	(0.25)	0.51	SP-19・20と接する
SP-22	20I	楕円形	平坦	0.23	0.20	0.16	0.12	0.21	
SP-23	19I	楕円形	丸み	0.23	0.20	0.14	0.12	0.10	
SP-24	20I	楕円形	丸み	0.36	0.27	0.16	0.16	0.17	
SP-25	19H	楕円形	丸み	0.25	0.20	0.11	0.10	0.24	
SP-26	20H	楕円形	丸み	0.28	0.22	0.15	0.13	0.20	
SP-27	19H	円形	丸み	0.30	0.29	0.19	0.19	0.28	
SP-28	19H	円形	丸み	0.34	0.30	0.18	0.17	0.27	SP-37と接する
SP-29	19H	円形	尖る	0.25	0.23	0.14	0.11	0.22	SP-37と接する
SP-30	19H	円形	平坦	0.28	0.26	0.14	0.13	0.10	
SP-31	19H	楕円形	平坦	0.28	0.21	0.14	0.13	0.30	
SP-32	19H	楕円形	丸み	0.26	0.23	0.15	0.14	0.22	
SP-33	19H	円形	平坦	0.21	0.20	0.14	0.12	0.17	
SP-34	19H	楕円形	丸み	0.26	0.20	0.12	0.11	0.28	
SP-35	19H	楕円形	丸み	0.29	0.29	0.19	0.17	0.10	
SP-36	19H	円形	平坦	0.42	0.40	0.24	0.22	0.35	
SP-37	19H	楕円形	平坦	0.38	(0.28)	0.30	0.23	0.15	SP-28・29と接する
SP-38	19H	楕円形	平坦	0.23	0.20	0.12	0.12	0.40	II群b類土器
SP-39	19H	円形	丸み	0.25	0.23	0.14	0.13	0.14	
SP-40	19H	円形	平坦	0.37	0.36	0.23	0.22	0.52	
SP-41	19I	円形	丸み	0.31	0.28	0.16	0.14	0.48	
SP-42	19I	楕円形	丸み	0.48	0.33	0.28	0.21	0.40	
SP-43	20J	円形	平坦	0.27	(0.12)	0.13	(0.06)	0.30	
SP-44	20J	円形	丸み	0.21	(0.12)	0.10	(0.06)	0.06	
SP-45	20J	円形	平坦	0.25	(0.10)	0.14	(0.06)	0.12	
SP-46	19H	円形	丸み	0.21	0.21	0.15	0.14	0.36	
SP-47	19H	楕円形	丸み	0.22	(0.15)	0.11	(0.10)	0.29	
SP-48	19H	楕円形	丸み	0.33	0.28	0.24	0.22	0.32	
SP-49	18I	円形	丸み	0.38	0.36	0.24	0.23	0.46	

表IV-3 小土坑の規模一覧(2)

遺構	調査区	平面形	底面 断面形	規模 (m)					備考
				確認面		坑底面		深さ	
				長径	短径	長径	短径		
SP-50	18I	楕円形	丸み	0.30	0.24	0.15	0.15	0.32	
SP-51	18H	円形	丸み	0.29	0.27	0.16	0.15	0.44	
SP-52	18H	楕円形	丸み	0.35	0.28	0.19	0.16	0.27	
SP-53	18H	楕円形	丸み	0.42	0.35	0.22	0.22	0.29	
SP-54	18H	楕円形	丸み	0.37	0.28	0.20	0.18	0.34	
SP-55	18H	楕円形	丸み	0.28	(0.17)	0.14	(0.12)	0.30	
SP-56	18H	円形	丸み	0.24	0.23	0.16	0.14	0.46	
SP-57	18H	円形	丸み	0.38	0.37	0.18	0.18	0.46	
SP-58	18I	円形	丸み	0.40	0.39	0.25	0.23	0.43	覆土中に剥片集中 SP-58 と接する
SP-59	18I	円形	平坦	0.50	(0.45)	0.36	0.21	0.32	
SP-60	18I	円形	丸み	0.29	0.27	0.18	0.18	0.40	
SP-61	18H	円形	丸み	0.32	0.31	0.20	0.18	0.49	
SP-62	18H	円形	丸み	0.29	0.28	0.17	0.15	0.37	
SP-63	18H	円形	丸み	0.50	0.47	0.34	0.33	0.56	
SP-64	18H	円形	丸み	0.33	0.31	0.21	0.18	0.48	
SP-65	18H	円形	丸み	0.25	0.23	0.17	0.17	0.36	
SP-66	18H	円形	丸み	0.25	0.22	0.16	0.14	0.17	
SP-67	18H	楕円形	丸み	0.41	0.30	0.22	0.20	0.37	
SP-68	18H	楕円形	丸み	0.34	0.28	0.17	0.16	0.17	
SP-69	18H	楕円形	丸み	0.40	0.34	0.21	0.20	0.37	
SP-70	20K	円形	丸み	0.20	0.18	0.07	0.06	0.11	P-35 を切る
SP-71	18H	円形	丸み	0.26	0.24	0.16	0.16	0.35	
SP-72	18H	楕円形	丸み	0.25	(0.24)	0.17	(0.16)	0.29	
SP-73	18G	円形	丸み	0.32	0.32	0.20	0.20	0.26	
SP-74	18G	楕円形	丸み	0.27	0.23	0.17	0.16	0.34	
SP-75	18G	楕円形	丸み	0.40	0.35	0.23	0.21	0.15	
SP-76	18G	楕円形	丸み	0.40	0.32	0.25	0.21	0.23	
SP-77	18G	楕円形	丸み	0.24	0.19	0.13	0.13	0.11	
SP-78	18G	楕円形	丸み	0.21	0.18	0.10	0.10	0.11	
SP-79	18G	円形	丸み	0.37	0.36	0.26	0.21	0.25	最も西側
SP-80	18H	円形	丸み	0.33	0.32	0.18	0.17	0.33	SP-81 と接する
SP-81	18H	円形	丸み	0.33	(0.29)	0.20	0.19	0.43	SP-80 と接する
SP-82	18H	円形	丸み	0.30	0.29	0.19	0.18	0.49	
SP-83	18H	円形	平坦	0.37	0.36	0.25	0.24	0.43	
SP-84	18G	円形	丸み	0.25	0.24	0.16	0.16	0.21	
SP-85	18H・19H	楕円形	丸み	0.40	0.33	0.27	0.23	0.27	
SP-86	19K	楕円形	平坦	0.31	0.26	0.14	0.13	0.88	SP-87 と接する
SP-87	19K	不整形	平坦	0.57	0.42	0.16	0.16	0.73	SP-86 と接する
SP-88	20K	楕円形	平坦	0.33	0.29	0.14	(0.12)	0.28	
SP-89	20J	楕円形	平坦	0.25	0.17	0.10	0.10	0.25	
SP-90	20J	楕円形	平坦	0.27	0.23	0.15	(0.07)	0.22	
SP-91	20J	円形	平坦	0.25	(0.12)	0.10	(0.05)	0.19	
SP-92	20J	楕円形	丸み	0.32	(0.25)	0.15	(0.13)	0.22	
SP-93	20J	楕円形	丸み	0.41	0.32	0.14	(0.12)	0.35	
SP-94	20J	円形	丸み	0.21	(0.13)	0.11	(0.07)	0.30	
SP-95	19J	円形	平坦	0.30	(0.19)	0.20	(0.14)	0.17	
SP-96	19J	円形	丸み	0.32	0.30	0.20	(0.14)	0.15	
SP-97	19J	楕円形	丸み	0.32	0.28	0.09	(0.08)	0.52	
SP-98	19J	楕円形	平坦	0.37	0.34	0.23	(0.12)	0.11	
SP-99	19I・19K	円形	平坦	0.33	0.32	0.21	0.19	0.20	

表Ⅳ-3 小土坑の規模一覧(3)

遺構	調査区	平面形	底面 断面形	規模 (m)					備考
				確認面		坑底面		深さ	
				長径	短径	長径	短径		
SP-100	19J	円形	丸み	0.32	0.30	0.13	(0.08)	0.05	
SP-101	20S	楕円形	平坦	0.25	(0.19)	0.17	(0.12)	1.20	
SP-102	19J	楕円形	平坦	0.25	0.20	0.14	0.13	0.09	
SP-103	19I・19J	楕円形	平坦	0.81	0.51	0.45	0.32	0.51	
SP-104	19J	楕円形	平坦	0.37	0.22	0.16	0.15	0.31	
SP-105	19J	楕円形	平坦	0.48	0.31	0.31	(0.12)	0.11	
SP-106	18J・19J	円形	平坦	0.34	(0.21)	0.18	(0.09)	0.36	炭化物
SP-107	18I・18J	円形	平坦	0.31	(0.17)	(0.13)	0.11	0.28	
SP-108	18J・19J	楕円形	丸み	0.53	0.42	0.19	(0.14)	0.18	
SP-109	18K	円形	丸み	0.30	0.29	0.17	(0.10)	0.11	
SP-110	18J	円形	平坦	0.30	(0.18)	0.21	(0.13)	0.17	
SP-111	20K	楕円形	丸み	0.27	(0.17)	0.11	(0.08)	0.05	
SP-112	20K	楕円形	平坦	0.37	(0.17)	0.15	(0.08)	0.29	
SP-113	19K・20K	楕円形	平坦	0.60	(0.33)	0.42	(0.22)	0.19	
SP-114	20K	円形	平坦	0.24	0.24	0.11	(0.07)	0.35	
SP-115	19K・20K	楕円形	平坦	0.33	0.27	0.12	0.10	0.59	
SP-116	19K	円形	平坦	0.37	0.35	0.11	(0.05)	0.56	
SP-117	20K	楕円形	平坦	0.33	(0.16)	0.16	(0.09)	0.53	
SP-118	19K	楕円形	平坦	0.40	0.33	0.24	(0.12)	0.12	
SP-119	19H	楕円形	丸み	0.25	0.21	0.14	0.13	0.40	
SP-120	19H	楕円形	丸み	0.28	0.24	0.15	0.13	0.17	
SP-121	19I	円形	丸み	0.46	0.46	0.30	0.28	0.32	
SP-122	19I	円形	平坦	0.28	0.26	0.15	0.15	0.28	P-27 を切る
SP-123	19I	円形	丸み	0.28	0.26	0.17	0.15	0.65	SP-131 と接する
SP-124	20K・20L	円形	尖る	0.20	0.17	0.05	0.05	0.32	P-35 を切る
SP-125	19I・20I	円形	平坦	0.31	0.31	0.22	0.21	0.25	SP-126 と接する
SP-126	20H・20I	円形	丸み	0.35	0.33	0.22	0.20	0.19	SP-125 と接する
SP-127	20I	円形	丸み	0.29	0.27	0.17	0.16	0.33	
SP-128	20I	楕円形	丸み	0.22	0.18	0.10	0.09	0.40	
SP-129	19K・20K	円形	平坦	0.22	(0.11)	0.11	(0.05)	0.08	
SP-130	19I	楕円形	丸み	0.36	0.29	0.22	0.18	0.32	
SP-131	19I	円形	丸み	0.41	(0.39)	0.26	0.24	0.21	SP-123 と接する
SP-132	20K	円形	平坦	—	—	0.23	0.23	0.67	SP-133 と接する
SP-133	20K	楕円形	平坦	—	—	0.18	0.18	0.72	SP-132 と接する
SP-134	20S	楕円形	平坦	0.30	0.22	0.25	0.17	0.10	
SP-135	20S	楕円形	丸み	0.33	(0.17)	0.23	(0.14)	0.64	
SP-136a	20S	円形?	丸み	0.18	(0.14)	0.11	(0.06)	0.42	a が b を切る
SP-136b	20S	円形?	丸み	(0.20)	(0.15)	0.19	(0.11)	0.61	a が b を切る
SP-137	19U	円形	丸み	0.36	(0.20)	0.19	(0.09)	0.72	最も東側・P-14 近く
SP-138	20S	楕円形	丸み	0.26	(0.22)	0.19	(0.16)	0.65	
SP-139	22S	楕円形	平坦	0.38	0.31	0.26	0.19	0.23	
SP-140	22M	楕円形	丸み	0.60	(0.38)	0.40	(0.30)	0.80	P-89 と近接
SP-141	22M	円形	平坦	0.55	(0.29)	0.23	0.24	0.81	P-86・95・89 近く
SP-142	22G	円形	平坦	0.26	(0.10)	0.15	(0.05)	0.14	
SP-143	22H	円形	平坦	0.25	(0.14)	0.16	(0.07)	0.30	
SP-144	22H	円形	丸み	0.23	(0.14)	0.14	(0.07)	0.19	
SP-145	21H	円形	平坦	0.17	(0.10)	0.09	(0.05)	0.17	
SP-146	21H	円形	平坦	0.17	(0.10)	0.14	(0.06)	0.20	
SP-147	23G	円形	丸み	0.25	(0.17)	0.13	(0.08)	0.25	
SP-148	23H	円形	丸み	0.20	(0.12)	0.10	(0.04)	0.19	

表IV-3 小土坑の規模一覧(4)

遺構	調査区	平面形	底面 断面形	規模 (m)					備考
				確認面		坑底面		深さ	
				長径	短径	長径	短径		
SP-149	23H	円形	平坦	0.23	(0.12)	0.15	(0.07)	0.25	
SP-150	23I	円形	丸み	0.21	(0.12)	0.13	(0.06)	0.30	
SP-151	23I	円形	平坦	0.16	(0.12)	0.09	(0.06)	0.16	
SP-152	23I	円形	平坦	0.14	(0.10)	0.09	(0.07)	0.13	
SP-153	23I	円形	平坦	0.21	(0.12)	0.12	(0.08)	0.11	
SP-154	22I	楕円形	丸み	0.26	(0.16)	0.11	(0.11)	0.49	
SP-155	22J	円形	丸み	0.13	(0.07)	0.06	(0.04)	0.09	
SP-156	23J	円形	平坦	0.15	(0.10)	0.10	(0.07)	0.12	
SP-157	23J	円形	丸み	0.23	(0.12)	0.14	(0.09)	0.10	
SP-158	22I	円形	平坦	0.20	(0.11)	0.17	(0.09)	0.11	
SP-159	22J	円形	平坦	0.28	(0.16)	0.21	(0.09)	0.13	
SP-160	21I	円形	尖る	0.16	(0.11)	0.04	(0.02)	0.15	
SP-161	21I	円形	平坦	0.23	(0.14)	0.17	(0.08)	0.26	
SP-162	23J	円形	丸み	0.15	(0.08)	0.07	(0.04)	0.08	
SP-163	19K	楕円形	平坦	0.39	0.23	0.10	0.10	0.47	
SP-164	22P・23O・23P	円形	平坦	0.44	(0.22)	0.23	(0.15)	0.60	単独

表IV-4 焼土の規模一覧

遺構	調査区	平面形	規模 (m)			備考
			確認面		深さ	
			長径	短径		
F - 1	20S	不整な円形	0.61	0.55	0.19	P-46と接する
F - 2	18L	不整形	1.2	0.67	0.06	環状に焼土・灰
F - 3	18L	不整形	0.77	0.47	0.05	
F - 4	20L	不整形	1.64	1.12	0.1	上部削平
F - 5	20L	楕円形	0.74	0.62	0.03	
F - 6	20L	楕円形	0.7	0.6	0.03	
F - 7	20L	楕円形	0.39	0.34	0.03	
F - 8	20L・21L	不整形	0.81	0.61	0.04	
F - 9	22L	楕円形	0.45	0.35	0.06	
F - 10	22J	不整形	0.93	0.6	0.1	盛土上位のⅢ層
F - 11	22J	不整形	1.18	0.77	0.17	盛土上位のⅢ層
F - 12	22L	楕円形	0.46	0.44	0.03	
F - 13	21S	不整形	(1.06)	0.98	0.08	F-14・FC- 1と近い
F - 14	21S	不整形	(1.40)	0.85	0.18	P-45開口部から覆土中
F - 15	23L	楕円形	0.91	0.70	0.12	
F - 16	18K・19K	不整形	1.60	1.27	0.16	P-42に接する
F - 17	18K	不整形	0.91	(0.42)	0.10	P-21と近接
F - 18	16 U	円形	0.21	0.20	0.04	MC下位のⅣ層

表IV-5 埋設土器の規模一覧

遺構	調査区	平面形	規模 (m)			備考
			確認面		深さ	
			長径	短径		
埋設土器 1	19L	—	0.22	—	0.32	P-50 開口部
埋設土器 2	22T	—	0.28	—	0.24	P-39 と近い
埋設土器 3	20L	—	0.12	—	0.16	
埋設土器 4	R19・R20	—	0.25	—	0.43	P-53 覆土上位
埋設土器 5	21M	—	0.14	—	0.13	
埋設土器 6	21I	—	0.17	—	0.21	

表IV-6 盛土遺構と付属遺構の規模一覧(1)

遺構	調査区	平面形	規模(m)			備考
			確認面		深さ	
			長径	短径		
MA	18 E・18 F	不明	(8.5)	—	0.22	断面のみ
MB	21 ~ 23 D・E・F・G ・H 22・23 I・J・K	不整形	57.4	22.2	0.82	沢状地形埋める
MBF-1	23 H	楕円形	0.72	0.53	0.11	
MBF-2	23 H	楕円形	0.45	0.36	0.06	
MBF-3	23 E・23 F	楕円形?	(0.56)	0.55	0.06	一部削平 MBFC-25 近接
MBF-4	23 F	円形?	0.46	(0.36)	—	一部削平 MBFC-12 近接
MBPO-1	23 G	不整形	0.56	0.28	—	盛土1回目
MBPO-2	23 G	不整形	0.39	0.37	—	盛土1回目
MBPO-3	23 G	不整形	0.46	0.39	—	盛土1回目
MBPO-4	23 G	不整形	0.32	0.29	—	盛土1回目
MBPO-5	22 G・23 G	不整形	0.48	0.42	—	盛土1回目
MBPO-6	23 G	不整形	0.68	0.43	—	盛土1回目
MBPO-7	23 G	不整形	0.43	0.22	—	盛土1回目
MBPO-8	23 G	不整形	0.53	0.23	—	盛土1回目
MBPO-9	23 G	不整形	0.54	0.31	—	盛土1回目
MBPO-10	23 H	不整形	0.35	0.21	—	盛土1回目
MBPO-11	23 H	不整形	0.62	0.33	—	盛土1回目
MBPO-12	23 H	不整形	0.55	0.39	—	盛土1回目
MBPO-13	23 F	不整形	0.7	0.52	—	盛土中位
MBPO-14	23 F	不整形	0.44	0.34	—	盛土中位
MBPO-15	23 F	不整形	0.32	0.29	—	盛土中位
MBPO-16			欠番			
MBPO-17	23 F	不整形	0.37	0.25	—	盛土中位
MBPO-18-1	23 H	不整形	0.5	0.43	—	南側・盛土中位
MBPO-18-2	23 H	不整形	0.26	0.18	—	北側・盛土中位
MBPO-19	23 H	不整形	0.55	0.41	—	盛土中位
MBPO-20	23 H	不整形	0.34	0.25	—	盛土中位
MBPO-21-1	23 F・23 G	不整形	0.35	0.28	—	北側・盛土中位
MBPO-21-2	23 F	不整形	0.26	0.22	—	南側・盛土中位
MBPO-22-1	23 H	不整形	0.4	0.32	—	西側・盛土中位
MBPO-22-2	23 H	不整形	0.34	0.25	—	東側・盛土中位
MBPO-23	23 H	不整形	0.36	0.31	—	盛土中位
MBPO-24	23 G	不整形	0.42	0.26	—	盛土中位
MBPO-25	23 G	不整形	0.62	0.33	—	盛土中位
MBPO-26-1	23 G	不整形	0.33	0.24	—	東側・盛土中位
MBPO-26-2	23 G	不整形	0.2	0.16	—	西側・盛土中位
MBPO-27	23 F	不整形	0.59	0.21	—	盛土中位
MBPO-28	23 E	不整形	0.35	0.31	—	盛土中位
MBPO-29	23 E	不整形	0.32	0.23	—	盛土中位
MBPO-30	23 E・23 F	不整形	0.88	0.7	—	盛土中位
MBPO-31	23 E	不整形	0.62	0.28	—	盛土最下位
MBPO-32	23 G	不整形	0.35	0.3	—	盛土中位
MBPO-33	23 G	不整形	0.5	0.45	—	盛土下位
MBPO-34	23 G	不整形	0.45	0.4	—	盛土下位
MBPO-35	23 G	不整形	0.65	0.55	—	盛土下位
MBPO-36	23 G	不整形	0.57	0.26	—	盛土下位
MBPO-37	23 F	不整形	0.46	0.41	—	盛土最下位
MBPO-38	23 F	不整形	0.74	0.6	—	盛土最下位
MBPO-39	23 F	不整形	0.59	0.5	—	盛土最下位
MBPO-40	23 F・23 G	不整形	0.56	0.38	—	盛土最下位
MBPO-41	23 F	不整形	0.33	0.3	—	盛土最下位
MBFC-1	21・22 D 21・22 E	不整形	3.16	2.58	—	22D 部分削平

表IV-6 盛土遺構と付属遺構の規模一覧(2)

遺構	調査区	平面形	規模 (m)			備考
			確認面		深さ	
			長径	短径		
MBFC-2	21 E	楕円形	0.48	0.41	—	
MBFC-3	22 E	楕円形	0.38	0.31	—	
MBFC-4	21 E	円形	0.36	0.34	—	
MBFC-5	23 I・23 J	円形	0.62	0.59	—	
MBFC-6	22 E	楕円形	0.52	0.44	—	
MBFC-7	23 I	楕円形	1.21	0.94	—	
MBFC-8	23 G	楕円形	0.31	0.26	—	
MBFC-9	23 G	不整形	0.56	0.4	—	
MBFC-10	23 G	不整形	0.75	0.45	—	
MBFC-11	23 F	楕円形	0.5	0.41	—	
MBFC-12	23 F	不整形	0.71	0.34	—	
MBFC-13-1	23 H	不整形	0.52	0.27	—	
MBFC-13-2	23 H	不整形	0.47	0.31	—	
MBFC-14	23 E	不整形	0.86	0.3	—	
MBFC-15-1	23 E	長楕円形	0.5	0.22	—	
MBFC-15-2	23 E	不整形	0.62	0.3	—	
MBFC-16-1	23 H	不整形	0.77	0.26	—	
MBFC-16-2	23 H	楕円形	0.23	0.19	—	
MBFC-17	23 H	不整形	0.24	0.16	—	
MBFC-18	23 H	楕円形	0.7	0.44	—	
MBFC-19	23 E	楕円形	0.3	0.24	—	
MBFC-20	23 E	不整形	0.36	0.26	—	
MBFC-21	23 E	不整形	0.61	0.32	—	
MBFC-22	23 E	不整形	0.47	0.16	—	
MBFC-23	23 E	楕円形	0.4	0.36	—	
MBFC-24	23 E	不整形	0.62	0.34	—	
MBFC-25	23 E・23 F	楕円形	0.74	0.68	—	
MBFC-26	23 G	楕円形	0.39	0.33	—	
MBFC-27	23 G	不整形	0.45	0.31	—	
MBFC-28	23 E	不整形	0.93	0.54	—	MBS-2 近接
MBFC-29	23 D	円形	0.36	0.35	—	
MBS-1	23 E	円形	0.23	0.21	—	
MBS-2	23 E	不整形	0.38	0.32	—	
MBS-3	23 E	楕円形	0.37	0.3	—	
MC	13 T・U・V 14 U・V 15 U・V・U 16 V 17 U・V	—	(24.30)	(9.15)	0.38	H-6とH-7を埋める
MCFC-1	15 V	円形?	0.34	(0.18)	0.11	MCPO-1の下位
MCPO-1	15 V	—	0.90	0.60	—	MCFC-1の上位
MCPO-2	15 V・16 V	—	1.35	0.52	—	
MCPO-3	15 V	—	0.40	0.26	—	H-6の上位
MCPO-4	15 V	—	0.45	0.28	—	
			0.44	0.35		
MCPO-5	16 V	—	0.46	0.36	—	1 m離れて底部
MCPO-6	15 V	—	0.50	0.37	—	MCPO-1下位で近接
MCFC-1	16 V	円形	0.70	0.67	—	H-7に近接
MCFC-2	16 V・17 V	不整な楕円形	1.21	0.81	—	H-7の上位
MCFC-3	17 U・17 V	不整な楕円形	0.78	0.63	—	H-7に近接
MD	29 T・U・V 30 T・U 31 T・U 32 T・U	—	(17.00)	(6.10)	0.47	H-8とH-10を埋める

V章 遺構・包含層の遺物

1. 概要

出土した遺物は、土器等が 67,476 点、石器等が 354,399 点で、合計は 421,877 点である。このうち遺構出土の遺物は、土器等が 61,953 点、石器等が 331,161 点で、合計は 393,116 点で、遺物の 93%が遺構から出土した。

土器はⅡ群 b 類土器、Ⅲ群 a 類土器、Ⅲ群 b 類土器、Ⅳ群土器が出土した。このうちⅡ群 b 類土器は H-3・5~10、土坑、盛土遺構、包含層から 66,881 点出土し、土器全体の 99%を占める。円筒土器下層 b 式、円筒土器下層 c 式、円筒土器下層 d 1 式、円筒土器下層 d 2 式があり、特に円筒土器下層 c 式から円筒土器下層 d 2 式までは、連続的に変遷する様子が捉えられた。この他、Ⅲ群 a 類土器は H-9、P-98、Ⅲ群 b 類土器は H-1・2・4・P-6、Ⅳ群土器は P-25 で出土し、包含層出土の土器の分布は、Ⅱ群 b 類土器が調査区全域、Ⅲ群 a 類土器、Ⅳ群 a 類土器が調査区北側にまとまる傾向がみられた（図 V-5）。

石器は定型的なものではスクレイパーが 480 点と最も多く、次いで両面調整石器 296 点、たたき石 197 点、扁平打製石器 144 点、石鏃 106 点、つまみ付きナイフ 104 点と続く。定型的な石器以外では、剥片 321,397 点、石核 442 点、R フレイク 433 点が多く、特に剥片はフラスコ状の土坑 P-1・2・17・22・24・53・72・88、小土坑 S P-58、盛土遺構 MB（29 か所）・MC などで剥片集中が検出され、石器全体の 90%を占める。剥片集中では、両面調整石器、石核、剥片などが接合する例が多く、石材を持ち込み、剥片石器作成の作業を遺跡内で行っていたものと思われる。剥片石器類の石材はほとんどが頁岩で、それ以外は黒曜石 46 点、メノウ 2 点などごく少量である。礫石器は砂岩、安山岩、凝灰岩などの石材が利用される。礫は円形・楕円形・棒状の礫が持ち込まれている。包含層の石器の分布については分布図（図 V-5~7）を作成した。各器種とも調査区の本線部分を中心に全体に分布し、偏りはみられない。

石製品は石棒、異形石器、玉、玦状耳飾、有孔礫、軽石製石製品、線刻のある礫などがあり、フラスコ状土坑からは有孔礫や北海道式石冠を模した小型の軽石製石製品が特徴的にみられた。

漆製品はフラスコ状の土坑 P-38・62 から 2 点出土した。P-38 出土のものは塗膜片で、P-62 出土のものは平面形が半円形の盆状の漆製品である。

2. 土器等

（1）遺構出土の土器等（図 V-8~35-1~375 表 V-3・4）

H-1~10 出土の土器等（図 V-8~10-1~34）

1・2 は H-1 出土のⅢ群 b 類土器である。1 は平底の底部で、摩耗して不明瞭だが斜行縄文がみられる。2 は薄手の胴部片で、横走気味の斜行縄文が施される。

3・4 は H-2 出土のⅢ群 b 類土器である。3 は幅広の薄い貼付がある胴部片、4 は底部付近の破片で、いずれも多条の R L 縄文が斜行する。

5 は H-3 出土のⅡ群 b 類の円筒土器下層 d 2 式で、口縁部は肥厚帯が巡り、3 か所の山形突起が推定される。口唇部直下には縄の圧痕が施され、肥厚帯には 2 本一組の L R 縄文が横位に複数条巡り、突起部分では上位の 4 条の縄文が山形になる。肥厚帯下部はやや張り出し、細い中空工具による横位気味の刺突文が巡る。刺突文は横位の縄文の間に施される部分がある。胴部は剥落や摩耗が激しく、はっきりしな

いが、多軸絡条体の回転文に細い2条1組の綾絡文が数段加えられる。内面は磨かれる。

6はH-4出土のⅢ群b類土器で、LR縄文が横走する。7はH-5床面HF-1出土のⅡ群b類の円筒土器下層c式である。口縁部は波状もしくは山形突起で、幅広い口縁部文様帯には縄文地に横位や「×」字状の縄線文が施文され、胴部には燃糸文が施される。

8～16はH-6出土で、9がⅡ群b類の円筒土器下層d2式、それ以外は円筒土器下層d1式である。8は口縁部が平縁で、わずかに外反する筒状の器形である。幅2cm程の口縁部文様帯には、無文地に細い原体の縄線文が菱形や横位に施され、その下位には横長の刺突文が加えられた微隆帯が巡る。胴部には結束第2種羽状縄文1段と多軸絡条体の回転文が施される。9は口縁部が平縁で、外反、屈曲し、胴部が張る器形で、底部はやや上げ底である。口唇部直下には縄の刻み、口縁部文様帯には緩やかな山形と斜位の文様、波形と横位の文様などが縄線文で施される。胴部には結束第2種の羽状縄文と多軸絡条体の回転文が多段に施文される。内面は磨かれ、底部付近には炭化物が付着する。10は胴部片で、単軸絡条体6類の燃糸文がみられる。11～14は平縁の口縁部で、無文地の文様帯に縄線文が施され、その下位に結束縄文がみられる。胴部文様は、11が自縄自巻の縄文、12が多軸絡条体の回転文、13・14は菱形の文様構成で、口縁部と胴部の境はわずかに張り出す。12・14の内面は磨かれる。15・16は同一個体の土器の擦り切り片である。結束第2種の羽状縄文と燃糸文が多段に施される胴部が、幅約4cmの細長い板状に加工される。15は両側縁、16は右側縁に表側からの擦り切り痕があり、半分以上擦り切ったところで、折り取られている。

17～20はH-7出土のⅡ群b類土器で、18が円筒土器下層b式、17～20が円筒土器下層d1式である。17は口縁部が平縁で胴部下半から緩やかにすぼまる筒状の器形である。口唇部直下は縄文が施され、無文地の文様帯には横位の縄線文が3条巡る。胴部には自縄自巻の縄文が施文された後、結束第1種羽状縄文が多段に重ねられる。18は緩やかな波状の口縁部片で、複数の横位縄線文と縄の圧痕がある隆帯がみられる。胴部は附加条？の斜行縄文である。19・20は細い微隆帯があり、口縁部がやや外反するものである。口唇部直下には斜位の縄刻みがあり、無文地の口縁部文様帯には菱形(19)や「く」の字状(20)の縄線文が施文され、胴部には結束第2種羽状縄文が多段に施文される。いずれも内面は磨かれる。19は微隆帯上に横長の刺突文が巡り、胴部には多軸絡条体の回転文が施文され、20の胴部には細い燃糸文と結束第2種羽状縄文が交互に施文される。

21～25はH-8出土の破片土器で、Ⅱ群b類土器である。21・22・24・25は円筒土器下層c式、23は円筒土器下層d2式である。21はやや外反する口縁部で、不整の綾絡文と擦りの異なる2本1組の縄線文が交互に施文される。22は横位気味の燃糸文がみられる。23は口縁部が外反し、口縁部文様帯下端は肩状に張り出す。文様帯には菱形の縄線文、胴部には結束第2種羽状縄文と多軸絡条体の回転文が施される。24は底部近くの破片で、擦り戻しの縄文が斜行する。25は小型の台付土器の底部である。底部内面には赤色物質？が残る。

26～34はH-9出土で、32がⅢ群a土器、それ以外はⅡ群b類土器である。Ⅱ群b類のうち29は円筒土器下層c式、26～28・30・31・33・34は円筒土器下層d2式と考える。円筒土器下層d2式の胎土は岩石や鉱物を多く含む。26・27・30・31は覆土下位の土器集中HPO-1出土である。26・27は口縁部が平縁で、文様帯がやや肥厚する筒状の器形である。口唇部直下には縄の圧痕が斜めに施され、文様帯は無文地に横位に巡る文様を基調とする。内面はよく磨かれる。26はH-9とP-6出土の胴部片が接合したもので、文様帯には横位に6条、縦位に2条1組の絡条体圧痕文が施文される。胴部には木目状燃糸文が施される。27は文様帯にLR・RL原体の2本1組の燃糸文が4条巡り、肥厚帯下位には結束第2種の羽状縄文が2条施文される。胴部には非常に細かいL・Rの矢羽状の原体の燃糸文が施される。28は推定の口径

が36 cmを超える大型のものである。口縁部は平縁で、やや外反し、胴部との境には隆帯がある。口唇部直下には縄の圧痕があり、文様帯にはL R・R L原体を2本一組にした縄線文で、大振りの菱形などが描かれる。原体は長く、折り返して押捺する部分も多くみられる。隆帯には縄の圧痕が斜めに押捺され、その下位に綾絡文、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。

29～31は口縁部片である。29は口唇部直下に矢羽状の縄線文が1条巡り、その下位には不整の綾絡文が密に施される。30・31はH P O-1出土で、口縁部がやや外反し、文様帯下端は肩状に張り出す器形で、口唇部直下には縄の圧痕、文様帯には緩い山形の縄線文が施文される。内面は磨かれる。30は文様帯下位に綾絡文と燃糸文がみられ、31は波状の口縁部で、胴部には木目状の燃糸文が施される。32は口縁部から胴部の破片で、全面に結束第1種の羽状縄文が施文される。33は平底の底部片で、無文で、横位の調整痕がみられる。繊維を含まない胎土で、I群土器の可能性もある。34はベンチ部分の床面出土の土器片円盤で、多軸絡条体の施文される胴部が利用される。

35はH-10出土のII群b類の円筒土器下層c式の薄手の口縁部片で、斜行縄文がみられる。

土坑出土の土器等 (図V-10～25・36～271)

P-6出土の51～53がIII群b類土器、P-25出土の104・105がIV群土器、P-98出土の258がIII群a類土器以外はII群b類土器である。

36～40はP-1出土の円筒土器下層d 2式である。36・37は口縁部が緩やかな波状で外反し、文様帯下端が肩状に張り出す器形で、胴部は直線的にすぼまる。器形がゆがみ、器面に凹凸を残すなど、やや粗雑な印象がある。口唇部直下と肩部には縄の圧痕がみられ、文様帯には2本一組の原体の縄線文が横位に数条施される。36は4波状で、文様帯中央の縄線間には中空工具による刺突文が1列巡る。張り出し部下位には綾絡文が1～2段巡り、胴部には細い原体の多軸絡条体回転文が施される。内面は磨かれる。37はP-3坑底面出土の破片とも接合し、胴部は横走気味の斜行縄文である。38・39は同一個体で、39はP-3坑底面出土である。39には縄の圧痕のある隆帯があるが、38では剥がれている。隆帯より上の口縁部はいずれも打ち欠かれ、胴部には燃糸文が施される。底部は無文の平底で、胎土には砂粒を多く含む。40はやや上げ底の底部で、胴部には多軸絡条体の回転文が施され、内面は磨かれる。36の底部の可能性もある。

41・42はP-2出土の円筒土器下層d 2式である。41はP-1とも接合し、36・37と器形や胎土が似るものである。口縁部はわずかに波状で、文様帯には緩やかな山形や横位の縄線文が施される。口唇部直下と肩状の張り出し部には縄の圧痕が斜めに押捺され、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。内面は磨かれる。42はP-3出土の44と同一個体の口縁部片である。口縁部は波状で、強く外反し、やや肥厚する。口唇部直下には縄の圧痕、文様帯には横位の縄線文が密に施される。

43～46はP-3出土の円筒土器下層d 2式である。43は小型の手づくね土器で、上面観は楕円形で、長軸両端には波頂部がある。無文だが、へら状工具による縦位の調整痕が残る。底部は破損する。44～46は口縁部片である。44はP-2出土の42と同一個体である。45は5条の横位縄線文の下位に波形の縄線文が施され、内面はよく磨かれる。46は口唇部断面がやや尖り気味で、横位の縄線文の間に微隆帯がある。

47はP-4とP-49出土のものが接合した円筒土器下層d 1式である。口縁部は平縁で、底部付近で丸みを帯びてすぼまる筒形の器形である。底部は上げ底である。口唇部直下には縄文が施され、幅の狭い無文地の文様帯には2条の縄線文が巡る。その下位には結束第1種羽状縄文が1段、胴部には燃糸文が施される。口縁部外面には炭化物が広く付着する。

48～53はP-6出土である。48・50は円筒土器下層c式、49が円筒土器下層d 2式、51～53はIII群b類土器である。48は胴部から底部が復元され、口縁部は図上で復元した薄手の筒形土器である。口縁部

には不整の綾絡文、胴部と底部外面には撚り戻し縄文が施される。49は口縁部が平縁で、強く外反し、文様帯下位が強く張り出す器形である。文様帯には横位や菱形の縄線文が施文され、原体の折り返しや、原体の端部を巻いて、蕨手状にする文様が特徴的にみられる。張り出し下位には結束第1種羽状縄文、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。50は薄手で、剥離や摩耗が激しいが斜行縄文が確認できる。51～53は同一個体である。口縁部は縦位の貼付と縄線文、口頸部には貼付帯の上下に沈線文がみられ、底部は上げ底である。地文はL形縄文が斜行、横走する。大安在B式土器である。

54～57・59～62は円筒土器下層c式、58は円筒土器下層b式の破片土器である。54～57はP-7出土で、54は縄線文と単軸絡条体6類の燃糸文、55は矢羽状の縄線文と貝殻条痕文、56は撚り戻し縄文がみられる。57は胴部で、単軸絡条体6類の燃糸文が施される。58はP-8出土で燃糸文が横位に施文される。59はP-9坑底面出土で、撚り戻しの縄文地に横位、縦位の縄線文がみられる。胎土の色調はオレンジ色である。60～62はP-10出土で、60は横位の燃糸文地に波状の縄線文、61は単軸絡条体5類の燃糸文、62は燃糸文が斜位にそれぞれ施文されている。

63・64はP-12出土の円筒土器下層d1式である。63は器高20cm程の小型の筒形で、口縁部は平縁、底部は平底である。無文地の文様帯には山形や横位の縄線文、胴部には太い原体の燃糸文が施文され、文様帯下位に結束第2種羽状縄文が加えられる。内面は磨かれる。64は坑底面出土の破片土器で、口唇部直下には縄線文、その下位には結束第2種斜行縄文が2段みられる。胴部は燃糸文である。

65はP-13出土の円筒土器下層c式の破片で、縄線文と中空工具による刺突文、斜行縄文が観察される。66はP-14出土の胴部、67はP-16出土の底部片で、燃糸文が施される。円筒土器下層式である。

68・69はP-17覆土下位・坑底面出土の円筒土器下層d1式である。68は図上で復元したもので、口縁部は摩耗が激しく不明瞭だが、文様帯は横位の縄線文もしくは燃糸文である。その下位には細い刺突文が巡り、胴部には燃糸文が縦位に施される。底部はやや上げ底である。69も摩耗し、文様帯の文様は不明で、胴部には非常に細い原体の燃糸文と結束第1種？の斜行縄文が2段横環する。

70はP-18出土の円筒土器下層c式の底部付近の破片で、縄文が縦行、斜行する。

71はP-19出土の円筒土器下層d1式で、細かな原体で、横位の縄線文3条、結束第1種羽状縄文、燃糸文が施文される。

72～77はP-20出土の円筒土器下層b（～c）式である。72・73は同一個体で、口縁部が小波状の筒形の器形である。口縁部文様帯には斜行縄文地に横位の縄線文が4条巡り、胴部には燃糸文が施される。内面は凹凸を残すが、磨かれる。底部はやや上げ底である。74～77は口縁部片である。74は燃糸文が口縁部では横位に、胴部では縦位に施文される。75は口縁部文様帯に結束第1種羽状縄文が施され、その下位の断面三角の細い隆帯上には縄線文が横位に押捺される。胴部上位には燃糸文、下位には多軸絡条体の回転文が施される。76は微隆帯を貼付け後、口縁部から胴部にかけて斜行縄文が施文される。77は斜行縄文と多軸絡条体の回転文が施される。

78～85はP-21出土の円筒土器下層d1式である。78は坑底面出土の破片が主体的に接合した。口縁部は平縁で、緩やかにすぼまる筒状の器形である。無文地の文様帯には矢羽根状の文様の縄線文が施され、胴部には自縄自巻的の縄文と結束第1種羽状縄文が交互に施文される。79・81～85は口縁部片である。79・80は坑底直上出土の同一個体で、文様帯には菱形の絡条体圧痕文、胴部には燃糸文が施される。81～85は無文地の口縁部文様帯に縄線文が施されるもので、81は斜位、82は矢羽根が対向、83・84・85は山形である。胴部にはそれぞれ結束羽状縄文と燃糸文が施される。原体は細いものが多い。81・84・85には微隆帯があり、微隆帯上には81が不明、84が刺突文、85は縄線文がそれぞれ施文される。83は離れたP-53の破片と接合した。

86・87はP-23出土の円筒土器下層c式の胴部片で、いずれも燃り戻しの縄文が斜行する。

88～97はP-24出土で、94が円筒土器下層c式、それ以外は円筒土器下層d1式で、覆土下位から坑底面までまとまって出土した。88～93は復元土器である。口縁部は平縁を基調とするが、89・90・91はわずかに4波状である。また弱く外反するものが多く、89・90は文様帯下端がわずかに張り出す。胴部中位はやや張りがあり、底部付近で急速にすぼまるものが多い。底部のあるものは上げ底で、89は底部外面に燃糸文が施文される。内面はナデが多い。無文地の口縁部文様帯には菱形、山形、山形の交差、縦位などが縄線文で描かれ、胴部との境にはすべて細い工具による円形(88・89)、横長(90～92)の刺突文が巡り、88では文様帯の縦位の区画にも刺突文が加えられる。胴部には燃糸文に結束第1種羽状縄文(90・91・92)・結束第2種羽状縄文(88・89・93)が多段に加えられ、90・91・92は非常に細い2本一組の矢羽状原体の燃糸文である。93は一番大型で薄手のもので、摩耗が激しい。94～97は口縁部片である。94は外反する口縁部で、燃り戻しの縄文が施され、胴部には燃糸文が施文される。95は薄く、縄線文4条の幅の狭い文様帯がある。96・97は微隆帯と刺突文が施されるものである。96は微隆帯上に横長の刺突文が施される。97は矢羽状の縄線文とともに細い刺突文が文様を構成する。

98～105はP-25出土で、98～102は坑底直上出土の円筒土器下層c式、103が覆土上位出土の円筒土器下層d2式、104・105はIV群土器である。98は口縁部が4波状で、やや外反し、胴部はやや膨らみ、底部はやや張り出す器形である。底部は上げ底である。地文には燃り戻しの縄文が施され、口縁部には2条一組の絡条体圧痕文が、口縁に沿って、波頂部から縦位に、そして横位に施される。内面はナデられ、広く炭化物が付着する。99は口縁部が破損するが、大きさや胴部から底部の形状が98に相似する。地文の燃り戻しの縄文は口縁部付近では縦位、胴部では横位に施文され、口縁部では同原体による2条の縄線文が横環する。底部は上げ底で、底部外面には燃り戻しの縄文が施文される。内面はナデられ、輪積みの痕跡が残る。100は口縁部から胴部が復元されたもので、口縁部は4つの山形突起があり、外反する。文様帯はなく、地文は複節縄文が斜行する。外面には炭化物が広く付着する。101は口縁部片で、縄文地に2条の縄線文が施される。102は底部で、やや横走気味の縄文が施文される。103は外反が強い口縁部片で、文様帯には菱形の縄線文、胴部には多軸絡条体の回転文に結束第2種斜行縄文が多段に加えられる。104はPFC-1出土の胴部片で、磨り消し縄文がある。105は多条の縄文地に縦位の綾絡文がみられる胴部片である。

106～111はP-29出土の円筒土器下層c式である。106は口縁部が緩やかな波状で、やや外反し、胴部がやや張る筒形の器形である。底部はやや上げ底である。地文の燃り戻し縄文は口縁部では横走、胴部では縦行し、底部外面にも施される。口頭部にはLR原体の縄線文が2条横環する。内面はナデ調整で、底部付近は被熱し赤色化する。107は胴部下位から底部の土器、筒形で、わずかに上げ底である。胴部にはやや条間があく燃糸文が施文される。108～111は口縁部もしくは口縁部付近の破片で、外反するものが多く、いずれも燃り戻し縄文が地文である。108・109・111は横位の縄線文がみられるもので、108は6条、109は2条、111は口唇部直下に1条確認できる。110は結束第1種羽状縄文が口頭部に巡るものである。

112はP-30出土の円筒土器下層c式の胴部片で、燃り戻し縄文地に貝殻条痕文が横位に施される。

113・114はP-32出土の破片土器である。113は口縁部に不整の綾絡文が密に横位に施文され、胴部には燃糸文がみられる。114は外反する口縁部付近の破片で、燃り戻し縄文が施文される。113は円筒土器下層b式、114は円筒土器下層c式である。

115・116はP-33出土の円筒土器下層c式である。115は単軸絡条体6類の燃糸文がみられる胴部片である。116は覆土下位出土の上げ底の底部で、RL縄文が胴部と底部外面に施される。内面には炭化物が付着する。

117・118はP-35出土の円筒土器下層d2式で、内面は磨かれる。117は斜位の縄線文、118は多軸絡

条体の回転文がみられる。

119・120はP-36出土の円筒土器下層c式の破片土器である。119は撚り戻し縄文が縦行する。120は坑底面出土の平底の底部で、燃糸文が施される。

121～123はP-37出土の円筒土器下層b～c式である。121は隆帯より上位の口縁部を欠く。器高は残存部で約46cmと大型で、胴部は長く、やや膨らむ器形である。底部は平底である。内面はナデ調整で、凹凸を残し、胎土には砂を多く含む。器面は全体的に摩耗する。隆帯は断面三角形で、上下とも、なで付けられ、隆帯上には綾絡文が施される。胴部には撚り戻し縄文が縦行し、炭化物が広く付着する。122は口縁部に撚り戻しの縄文、胴部には多軸絡条体の回転文が施され、撚り戻しの原体による縄線文2条で区画される。123は縄文地に横位、縦位の縄線文がみられる。

124～126はP-38出土の円筒土器下層c式である。124は縄文地に横位、125は貝殻条痕文地に縦位の縄線文が施文される。126は上げ底の底部で、胴部には燃糸文が斜位に施文される。

127はP-39出土の円筒土器下層d2式で、無文地の口縁部文様帯には波行や横位の縄線文があり、細い隆帯上には縄の圧痕がみられる。胴部には木目状燃糸文に結末第2種斜行縄文が多段に重ねられる。

128～132はP-40覆土下位から坑底面出土の円筒土器下層c式である。128・129は横位の燃糸文地、130・131は無文地に矢羽状の縄線文が施文され、いずれも波状口縁である。130の胴部は自縄自巻の縄文である。132はLRとRRL縄文が斜行する胴部片である。133はP-40とP-41が接合した円筒土器下層c式の胴部片で、非常に細かい原体の燃糸文が斜位に施文される。

134はP-41出土の円筒土器下層c式の口縁部で、撚り戻しの縄文が斜行する。

135はP-42坑底面出土の胴部片で、燃糸文が斜位に施文される。円筒土器下層式である。

136はP-43坑底直上出土の円筒土器下層b式である。推定の器高（一部接合していない）は約59cmと本遺跡では最大である。器形は口縁部が平縁で、胴部が長い筒形である。底部は平底である。口縁部は単軸絡条体1類の燃糸文を斜位に交差して施文し、網目状の文様構成とする。隆帯は断面形が角型で、へら状工具で斜めに刻みが入られる。胴部は燃糸文が斜位や縦位に切りあって施文され、やや粗雑にみえる。

137～141はP-45出土である。137～139は円筒土器下層c式、140・141は円筒土器下層d1式である。137～139は、器高約24～27cmの緩やかにすぼまる筒形の器形で、137・138の口縁部は波状でやや外反する。底部は137が平底、138・139が上げ底である。内面はナデ調整されるが凹凸がやや残る。いずれも胴部には撚り戻し原体の縄文が斜行する。137は無文地の口縁部に撚りのゆるい縄線文が4条巡る。138は口縁部が少なく、剥落も多いため文様は不明だが、残存部は撚り戻し縄文が施される。139は口縁部が4波状で外反し、文様帯には結末第1種羽状が1段横環する。胴部の大部分は撚り戻しの縄文であるが、底部付近では斜行縄文が施文される。140・141はP-45覆土上位とH-5、P-22が接合した同一個体である。140は口縁部から胴部の復元で、口縁部は4波状である。文様帯は縄線文が菱形を構成する文様で、その下位にごく細い微隆帯が巡る。胴部には自縄自巻の原体の縄文が施された後、隆帯の下位に結末第1種羽状縄文が加えられる。141はやや上げ底の底部である。

142～149はP-46～52の破片土器で、142は円筒土器下層c式、143～146・148・149は円筒土器下層d1式、147は円筒土器下層d2式である。142はP-46出土の胴部片で撚り戻しの縄文が縦行する。143はP-47出土の胴部片で、燃糸文が施される。144・145はP-48出土である。144は文様帯に菱形の縄線文がみられ、その下位の微隆帯には刺突文が施される。内面はナデ調整である。145は多軸絡条体の回転文が施される平底の底部である。146はP-49出土の胴部片、細かい原体の燃糸文が施される。147はP-50出土で口唇部直下に縄による圧痕があり、文様帯には斜位や横位の縄線文が施文される。薄い微隆帯上には縄線文が施され、内面は磨かれる。

148はP-51出土の円筒土器下層d1式で、144と文様構成や胎土が似る。

149はP-52出土の円筒土器下層d1式である。外反する口縁部片で、口唇部直下に縄の押捺、文様帯には縄線で菱目状の文様が描かれる。胴部には結束第2種羽状縄文と燃糸文を交互に施文する。

150～155はP-53出土の円筒土器下層d1式である。150～152は覆土下位のPF-1から坑底面出土の復元土器である。口縁部は平縁で、口縁部から底部まで斜めにすぼまる筒状の器形である。内面はよくナデ調整される。無文地の文様帯は幅が狭く、細かい原体の縄線文が施文される。文様帯直下には結束第2種の斜行縄文が施され、燃糸文が施文される。150は口唇部直下に縄文が施され、文様帯には縦位と横位の縄線文が押捺される。胴部は燃糸文施文後、全体にナデられる。器外面には炭化物が付着する。底部は上げ底である。151は口径約34cm、器高約39cmと大型の筒形土器で、口縁部はわずかに波状になり、器厚は薄手である。口縁部文様帯は緩やかな山形が縄線で施文され、頂部からは「U」字状の縦位の縄線が加えられる。胴部の燃糸文は縦位に整然と施される。152は薄手で、器外面の剥落、摩耗が激しい。文様帯は網目状？の文様で、胴部には燃糸文と結束第2種羽状縄文が多段に施される。153・154は口縁部片で、無文地の文様帯に菱形の構成の縄線文がみられる。口唇部断面は丸みを帯び、口唇部直下には、153は縄文、154は縄の圧痕が施される。胴部は燃糸文が施される。153は坑底面出土で、橙色を呈し、薄い微隆帯の下位には結束第1種斜行縄文と燃糸文が施される。154は矢羽状の縄線文で文様が構成され、胴部は燃糸文である。155は燃糸文が施される上げ底の底部である。

156～158はP-54出土の円筒土器下層d1式である。156は薄手で、口縁部はわずかに波状になる筒形の器形である。口縁部文様帯は縄線で山形を描き、その直下に横長の刺突文が巡る。その下位はなでられ段差ができるため、上位の文様帯が肥厚するようにみえる。胴部には細い原体の燃糸文を施し、結束第2種羽状縄文を多段に加えている。157・158は口縁部片で、内面のナデ調整や胎土などはよく似るもので、いずれも口唇部直下には縄文が施され、無文地の文様帯には縄線文が施される。胴部には細い原体の燃糸文がみられる。157は文様帯に横位の縄線文が3条巡り、微隆帯上には中空工具による刺突文が加えられ、胴部の結束羽状縄文は多段である。158は文様帯に縦位、山形の縄線文がみられる。

159・160はP-55出土の円筒土器下層c式である。155は口縁部から胴部が復元され、口縁部が4波状になると推定される筒形の器形である。口縁部は無文地に綾絡文が2条、それ以下は燃糸文と綾絡文が多段に施される。160はやや厚手の土器で、矢羽状の縄線文や結束第1種羽状縄文が施文される。

161・162はP-56出土の円筒土器下層c式である。161は坑底面出土の胴部片で被熱し、162はP-29出土の土器1点と接合した上げ底の底部で、それぞれ燃り戻しの縄文が縦行する。

163～168はP-58出土の円筒土器下層d1式である。163は覆土と坑底面出土で、口縁部が4波状で、やや外反し、胴部下半から斜めにすぼまる器形である。底部は上げ底である。地文に燃糸文を施文後、口縁に沿った縄線文3条と多段の結束第1種羽状縄文が施文される。内面はよくナデ調整される。164～168は口縁部片で、文様帯に斜位(164・166)、横位(165・167・168)の縄線文が施され、2本一組の原体の縄線文(164・165)を施文するもの、燃りの異なる縄線文を交互に4条施文(167)するもの、縄線文の折り返しと刺突文がみられるもの(168)などがある。胴部には結束第1種羽状縄文と、168は自縄自巻の縄文、それ以外は燃糸文が施文される。164・168は口唇部直下に縄文がみられ、166の文様内には赤色物質が付着する。

169はP-59出土の円筒土器下層c式で、燃り戻しの縄文地に縦位、横位の縄線文が施文される。

170・171はP-60出土で、170は円筒土器下層b式、171は円筒土器下層d1式である。170は摩耗が激しく、不明瞭だが、不整の綾絡文と隆帯が確認できる。171は波状の口縁部で、自縄自巻の縄文地に縄線文4条と結束第1種羽状縄文が施文される。

172はP-61出土の円筒土器下層d1式の胴部片で、細い原体の燃糸文が施される。

173～179はP-62出土の円筒土器下層c式である。173・174は口縁部片で、横位の矢羽状の縄線文と結束第1種羽状縄文が施される。173は口縁部に横走気味の撚り戻しの縄文と結束第1種羽状縄文が交互に施文され、その中間に縄線文が施される。結束第1種羽状縄文は施文方向を変え、対向する部分がある。胴部には撚り戻しの縄文が縦行する。174の胴部には自縄自巻的縄文が縦行する。175・176は口縁部片で、撚り戻しの縄文地の文様帯に絡条体の圧痕文(175)、縄線文(176)がみられる。177・178は坑底面出土である。177はLR縄文が斜行する胴部、178は上げ底の底部で、異なる原体の撚り戻しの羽状縄文が施文される。179は推定の直径が5cm程の小型土器の上げ底の底部で、底部外面に撚り戻しの縄文が施文される。

180はP-65出土の円筒土器下層c式である。口径が約14cm、器高約26cmの細長い筒状の土器である。口縁部は波状でやや外反し、胴部には凹凸が残り、底部付近ですぼまる。口唇部は一部折り返し状になる部分があり、断面形は丸みを帯びる。文様帯はなく、器面には条間があいた燃糸文が斜位に切りあてて施される。

181～184はP-66出土の円筒土器下層c式である。181は口縁部片で、単軸絡条体3類?の横位の燃糸文と微隆帯がみられる。182・183は同一個体の口縁部付近の破片で、縄線文と刺突文、撚り戻しの縄文がみられる。184は胴部片で、LR・RL縄文が斜行、横走し、一部羽状になる。

185～187はP-67出土の円筒土器下層d1式である。185は波状の口縁部片で、口唇部直下には縄文、文様帯には斜位・横位の縄線文が施される。隆帯は剥がれているが痕跡が残る。胴部は燃糸文と結束第2種の斜行縄文が多段に施文される。186は上げ底の底部で、185の同一個体と考える。187は胴部片で、燃糸文施文後、結束第2種の斜行縄文が加えられる。

188はP-68出土の円筒土器下層c式である。燃糸文が口縁部では横位、胴部では縦位に施文される。微隆帯には縄線文が横位に押捺される。

189・190はP-70出土の円筒土器下層c式である。189は撚り戻しの縄文が縦行する胴部である。190は底部付近の破片で、胴部には斜行縄文に縄線文が縦位に押捺される。

191・192はP-71出土の円筒土器下層d1式である。191は口縁部片で、横位縄線文3条と結束第1種の斜行縄文がみられる。192は底部で、胴部には燃糸文が施文される。被熱し、焼け弾けもみられる。

193～198はP-72出土の円筒土器下層c式である。193は口縁部が4波状で外反し、胴部は斜めに緩やかにすぼまる。底部はわずかに上げ底である。地文は撚り戻し原体の斜行縄文で、胴部中央では縄線文が2条横罫する。194～196は口縁部もしくは口縁部付近の破片で、194は細い縄線文と横走する撚り戻し縄文、195は横位の燃糸文、196は斜行縄文のみがみられる。197・198は196と同一個体の胴部・底部で斜行縄文が施される。

199はP-73出土の円筒土器下層d1式のやや上げ底の底部で、細い原体の燃糸文が施される。

200～203はP-74出土で、200は円筒土器下層d1式、それ以外が円筒土器下層d2式である。200はH-5覆土の土器と接合した。口縁部が平縁の筒形の器形である。口唇部には縄文が施され、その直下の無文地の文様帯には2本一組の縄線文が2条施文される。その下位には半裁竹管状の工具により、押し引き状の刺突文が巡る。胴部には細い原体の斜行縄文が施文され、上位には綾絡文、下位には結束第1種羽状縄文が加えられる。201・202は口縁部片である。201は坑底面出土で、口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には縄線文が2条施文され、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。202は口唇部にへら状工具による縦位の刻みがあり、文様帯には鋸歯状の沈線文と横位の縄線文2条が交互に施文される。203は坑底面出土の胴部片で、細い原体の多軸絡条体の回転文が施される。201～203の内面は磨かれる。

204はP-75出土の円筒土器下層d1式である。口唇部には縄文、文様帯には横位の縄線文が施文され、胴部には綾絡文と燃糸文が施文される。器内外面には炭化物が付着する。

205・206はP-76出土の円筒土器下層c式である。205は口縁部片で、斜位・横位の縄線文と押し引き状の刺突文が、撚り戻しの縄文地に施される。206は胴部片で、単軸絡条体6類の網目状の燃糸文が施文される。

207・208はP-78出土で、207が円筒土器下層d1式、208が円筒土器下層c式である。207は波状の口縁部で、無文地に横位の縄線文が6条施される。胴部には結束第1種羽状縄文と自縄自巻の縄文が施文される。208は短軸絡条体6類の燃糸文がみられる。焼成は良好で、内面は磨かれる。

209はP-79出土の円筒土器下層d2式の口縁部片で、文様帯には縄線文、断面三角形の隆帯には棒状工具による刻みが入れられる。胴部には結束第1種羽状縄文と細かな原体の多軸絡条体の回転文が施される。

210・211はP-81出土の円筒土器下層d2式である。210は無文地の文様帯に菱形と推定される縄線文が施され、胴部には結束第2種羽状縄文と多軸絡条体の回転文が施される。211は底部付近の破片で、無文地に貝殻条痕文が横位、縦位に施される。

212～214はP-82出土で、212・213は古い段階の円筒土器下層d1式、214は円筒土器下層b式である。212は口縁部が緩やかな4波状で、わずかに外反する筒形の器形である。口縁部文様帯には結束第1種の羽状縄文が2段巡り、胴部との境には2本一組の縄線文2条が横縞する。胴部には自縄自巻の縄文が縦行し、結束第1種羽状縄文が多段に加えられる。213は覆土下位出土である。口縁部は緩やかな4波状と推定され、胴部は丸みを持つてすばまる台付の土器である。高台部分は器厚が胴部より厚く、被熱し、摩耗する。口唇部には縄文、文様帯には菱形の文様構成の縄線文が施される。胴部には縦行の縄文と結束第1種羽状縄文が交互に施文される。高台外面には縄文が斜行する。214は口縁部付近の破片で、不整の綾絡文と、縄線文が押捺される隆帯があり、胴部には燃糸文が施文される。

215・216はP-83出土の円筒土器下層式である。215は燃糸文が横走し、216は太い沈線文がそれぞれ横位に施される。215は円筒土器下層c式、216は円筒土器下層b式と考える。

217～219はP-86出土の円筒土器下層c式である。217は口縁部片で、文様帯には無文地に綾絡文が3条巡り、その下位には縄文地に横位と短い縦位の沈線文が描かれる。218・219は同一個体で、口縁部には不整の綾絡文列と縄文地に横位と短い縦位の沈線文がみられる。胴部には燃糸文が間隔を開けて施され、施文後ナデられる。

220はP-87出土の円筒土器下層d1式で、P-95とも接合した底部片である。自縄自巻の縄文が縦行、底部付近では斜行する。

221～233はP-88出土の円筒土器下層b(～c)式である。221は坑底面出土の復元土器で、口縁部が4波状で、底部へかけ斜めにすばまる器形である。底部はやや上げ底である。無文地の口縁部文様帯には不整の綾絡文が多条に巡り、胴部には撚り戻しの縄文が斜行する。222・223は胴部から底部の復元土器で、いずれも上げ底である。222は撚り戻し縄文が斜行し、223は摩耗してはっきりしない燃糸文が施される。224・226～231は口縁部片で、外反するものが多い。文様帯には不整の綾絡文と隆帯(224・229)、撚り戻しの縄文と隆帯(226)、貝殻条痕文横位(227)、単軸絡条体5類の燃糸文と沈線文(228)、自縄自巻の縄文地に縄線文(230)、縄文のみ(231)など多様である。224・225は同一個体で、225の底部は上げ底で、推定の底径が約18cmと大型である。底部外面には太い原体の縄文が施文される。232は隆帯のある破片で、口縁部には横位縄線文、体部には貝殻調整痕と撚り戻しの原体の縄文である。隆帯には刺突文が施される。233は坑底面出土の胴部片で、燃糸文が切りあって施文される。

234～237はP-89出土の円筒土器下層c式である。234は口縁部が4波状で外反し、胴部は斜めにすばまる器形で、底部は上げ底である。口縁部下位には隆帯が巡るが、上下をナデ付けられ、一見肩状の張り出し部のようなものである。地文は上位にRRL原体、下位にLLR原体の撚り戻し縄文が斜行する。235は撚り

戻しの縄文地に同じ原体の縄線文が横位に1条施される。236は胴部片で単軸絡条体6類の燃糸文である。237は上げ底の底部で、胴部には燃糸文、底部外面には太い原体の縄文が施される。

238～242はP-91出土の円筒土器下層c式の新しい段階の口縁部片である。238は横位の縄線文の間に結束第1種羽状縄文が施される。239・240は同一個体で、波状の口縁部に燃りの異なる縄線文、結束第1種羽状縄文、綾格文が施される。胴部には燃糸文が施される。241は燃り戻しの縄文を横に回転、押捺、回転をくり返して施文している。242は胴部片で、縄文地に刺突文のある微隆帯が巡る。

243・244はP-93出土の円筒土器下層d2式で、いずれも被熱し、摩耗する。口縁部は外反し、胴部との境は張り出す。無文地の口縁部文様帯には緩い山形・横位の文様が縄線文で施文され、胴部の文様は不明瞭だが、244は多軸絡条体の回転文と思われる。

245～247はP-94出土の円筒土器下層b式の破片土器である。245は口縁部片で、無文地に綾格文が数条みられる。246・247は同一個体の胴部片で、原体の異なる燃糸文が246では密に横位に、247では縦位に施される。

248～252はP-95出土の円筒土器下層b式である。248は口縁部が小波状でわずかにくびれて外反する筒形の器形である。器面にはL R・R L原体の羽状縄文が施され、対向して菱形の文様となる部分がある。胴部下位では燃糸文が施される。249は胴部下半の復元土器で、底部は上げ底である。胴部には燃糸文が施され、底部外面には縄文？が施文される。250は緩やかな波状の口縁部で、貝殻条痕文が横位に施される。その下位には断面三角形の薄く無文の隆帯があり、隆帯が剥がれた部分には縄線文がみられた。胴部には自縄自巻的な縄文が縦行する。251は燃糸文が横位に施されている。252は上部に縄線文がある胴部片で、燃糸文が施文される。

253～255はP-96出土で、253・254は円筒土器下層d1式で、255は円筒土器下層c式である。253・254は復元土器である。口縁部が平縁の筒形の器形で、無文地の文様帯には横位の縄線文が複数巡る。胴部には燃糸文が施され、253では結束第1種の羽状縄文、254では結束第2種の斜行縄文が多段に加えられる。いずれも施文の原体は細いものである。また内面は丁寧にナデ調整される。253は文様帯の4条の縄線文下位には施文時についた？爪跡が連続してみられる。底部付近は丸みを持ってすばまり、底部はやや上げ底である。254は口縁部が直立気味でそこから斜めにすばまる器形である。255は口縁部片で、貝殻条痕文が横位に施され、胴部には非常に細い原体の燃糸文が施文される。内面は磨かれる。

256はP-97坑底面出土の円筒土器下層d1式の口縁部片である。口唇部には縄文、無文地の文様帯には横位の縄線文が施され、胴部には結束第1種羽状縄文と燃糸文がみられる。

257・258はP-98出土で、257はⅡ群b類の円筒土器下層d2式、258はⅢ群a類土器である。257は口縁部片で、口唇部には縄の圧痕、無文地の文様帯には縄線文が施文される。258は胴部片で、縦位・横位に貼付の痕跡があり、その周りには馬蹄形の圧痕文がみられる。胴部は斜行縄文である。

259・260はP-99出土の円筒土器下層b式である。259は口縁部片で横位の燃糸文がみられる。260は平底の底部で、胴部の文様は不明である。

261はP-100出土の円筒土器下層c式である。口縁部は平縁で外反し、胴部は緩やかにすばまる筒状の器形である。口縁部の文様は、斜行縄文を施文した後、貝殻条痕文が横位に施され、帯状に縄文施文部を残す。その下位には縄線文が3条巡り、胴部には燃り戻しの縄文が散漫に施される。

262～264はP-101出土で、262が円筒土器下層c式、263が円筒土器下層d2式、264が円筒土器下層d1式である。262は斜行縄文がある胴部片である。263は底部付近の破片で、貝殻腹縁文と細い縄線文で、「V」字状の文様が施文される。器内外面ともよく磨かれる。264は幅3cm程の土器擦り切り片で、燃糸文が施される胴部が利用され、左右側縁には擦り痕がある。

265～268はP-102出土の円筒土器下層c式である。265～267は復元土器である。265は胴部から底部の復元で、筒形で底部は平底である。胴部には縄文が斜行し、内面には炭化物が付着する。266は口縁部が4波状で、わずかに外反する。胴部は長い筒形で、凹凸がよく残り、底部付近で急速にすぼまる。底部はやや上げ底である。口縁部の文様は横走する燃り戻しの縄文地に波頂部から縦位に3条、口縁部に沿って2条、胴部との境に3条の縄線文が施される。胴部は、上半部が燃り戻しの縄文、下半部は縄文がそれぞれ縦行気味に施文される。267は口縁部が緩やかな小波状で、わずかに外反する筒形の器形で、底部は平底である。口縁部の文様は無文地に綾絡文が数条間隔を置いて巡り、胴部では縄文が斜位に施され、一部縦行や横走する。胎土には繊維を多く含む。268は口縁部片で、無文地の文様帯には縦位と横位の縄線文、胴部には斜行縄文が施される。

269・270はP-103出土で、269が円筒土器下層c式、270が円筒土器下層d2?式である。269は口縁部片で、無文地に縄線文と結束第1種羽状縄文がみられる。270は坑底面出土の胴部片で、摩耗が激しいが、細かい原体の多軸絡条体の回転文が施される。

271はP-104出土の円筒土器下層d2式である。胴部下半で屈曲する器形で、燃系文に結束第2種羽状縄文が縦位に施される。

小土坑（SP）出土の土器（図V-25-272・273）

272はSP-38出土の円筒土器下層c式で、口縁部付近が復元された。口縁部は平縁で、胴部へと斜めにすぼまる器形である。無文地の文様帯には3本一組の縄線文が2条横環する。胴部には燃系文が施される。273はSP-141出土の胴部片で、斜行縄文が施される。円筒土器下層c式である。

埋設土器（図V-25・26-274～282）

274は埋設土器1で、円筒土器下層d2式である。胴部上位から底部まで復元され、口縁部は接合できず図上で推定復元した。口縁部は弱く外反し、胴部は筒形で、底部へと緩やかにすぼまる。底部はやや上げ底である。無文地の文様帯には縄線文で菱形が連続する文様が施文され、口頸部には断面三角形の隆帯が貼り付けられる。胴部には多軸絡条体の回転文が施され、胴部上半には結束第2種羽状縄文が多段に重ねられる。

275は埋設土器2で、円筒土器下層d2式である。器高は約47cmと大型で、口縁部は緩やかな波状もしくは平縁で、大きく外反し、文様帯直下は肩状に張り出す。胴部は筒状で長く、底部付近ですぼまる器形である。底部はやや上げ底である。口頸部と肩状の張り出し部には縄の圧痕が縦位にみられ、無文地の文様帯には山形が連続する文様の縄線文が施される。文様帯下位には結束第2種羽状縄文が1段巡り、胴部には軸跡が残る多軸絡条体の回転文が整然と施される。内面は磨かれる。

276・277は埋設土器3で円筒土器下層d2式、278・279が埋設土器3内出土の土器擦り切り片で、円筒土器下層d1式である。276は口縁部付近の破片で、肩部の張り出しは弱い。無文地の文様帯には斜位と横位の縄線文があり、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。277はやや上げ底の底部で、被熱し赤色化する。278は口縁部から胴部、279は胴部の破片で、同一個体である。幅4～5cmの長い板状に擦り切り、折りとられている。文様帯には菱形の縄線文、胴部には2本一組の矢羽根状の原体の燃系文が施文される。

280は埋設土器4で、円筒土器下層d1式である。胴部から底部までの復元で、胴部から底部まで緩やかにすぼまる器形である。底部は平底である。胴部には燃系文が施され、貝殻の調整痕が一部にみられる。内面はナデ調整され、広く炭化物が付着する。

281は埋設土器5で、円筒土器下層c式と考える。胴部から底部までの復元で、胴部から底部まで緩やかにすぼまる器形である。底部はやや上げ底である。胴部と底部外面には燃り戻しの縄文が施される。

282は埋設土器6で、円筒土器下層c式である。口径約13cm、器高約20cmと小型で、器形は口縁部が緩やかな小波状で、口縁部から底部へかけて直線的にすばまる筒形である。底部はやや張り出し、やや上げ底である。文様は口縁部が斜行縄文、胴部には燃糸文が施される。

盛土遺構出土の土器等 (図V-27～35-283～375)

盛土遺構B (MB)

283～348は盛土遺構B出土である。出土土器は円筒土器下層c式から円筒土器下層d2式までであるが、円筒土器下層d1式～d2式が主体で、変遷が捉えられる。なお土器集中の層位は、MBPO-1～12が盛土上位(1回目)、MBPO-13～30・32が盛土中位、MBPO-33～36が盛土下位、MBPO-31・37～41が盛土最下位である。盛土遺構の土器集中MBPO-1～41、盛土遺構出土の土器の順で述べる。

出土土器はすべてⅡ群b類土器である。

円筒土器下層c式は306・325・311・337～340、

円筒土器下層d1式は293・294・297・304・305・307・308・313～329・336・341～345、

円筒土器下層d2式は283～292・295・296・298～303・309・310・312・330～335・346～348である。

283はMBPO-2出土、口縁部は平縁で外反し、文様帯下端に肩状の張り出しがあり、胴部は緩やかにすばまる器形である。口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には山形・斜位・横位の縄線文が施文される。胴部には条間が広い燃糸文が施され、結束第2種の羽状縄文が多段に加えられる。内面はよく磨かれる。284・285はMBPO-3出土の口縁部付近の破片である。284は2段の張り出しがあり、文様は矢羽根状の文様の縄線文である。285は横位縄線文と粗密のある燃糸文がみられる。286はMBPO-5出土の口縁部片で、平縁で外反し、肩状の張り出しが強い。口唇部直下と張り出し部には縄が押捺され、無文地の文様帯には山形の縄線文、胴部には結束第2種の羽状縄文と条間があく燃糸文が施される。287はMBPO-6出土の平底の底部で、胴部には多軸絡条体の回転文がみられる。288はMBPO-9出土のやや上げ底の底部で、胴部には多軸絡条体の回転文が施文される。289はMBPO-10出土の口縁部の破片である。平縁で、文様帯と胴部の境がわずかに張り出す器形である。口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には菱形の縄線文が施文され、胴部には結束第2種の羽状縄文と2本一組の細い原体による燃糸文が多段に施される。内面は磨かれる。290～292はMBPO-11出土で、やや厚みがあり、内面は磨かれる。290は口縁部が平縁で、やや外反し、文様帯と胴部の境の張り出しはわずかである。胴部は筒形で、底部へと緩やかにすばまる器形である。底部はやや上げ底である。口唇部には縄文が施され、無文地の文様帯には縄線文で山形が交差する文様が施文される。胴部には多軸絡条体の回転文が施され、結束第2種の羽状縄文が多段に加えられる。

291は台付の鉢形土器である。口縁部は平縁で、底部近くで曲線的にすばまり、高さ2cm程の直立する高台が付く。無文地の文様帯には横位の縄線文が3条巡り、胴部には結束第2種の斜行縄文と燃糸文が多段に施される。292は平縁の口縁部片で、肩状の張り出しがある。無文地の文様帯には縄線文で大きな菱形内をさらに菱形で充填する文様が施され、一部網目状にもみえる。胴部は綾絡文と条間があく燃糸文が施される。293はMBPO-13出土である。口縁部は平縁で外反し、胴部との境はわずかに張り出し、胴部は下半から底部にかけ急速にすばまる器形である。口唇部には縄の圧痕が施され、無文地の文様帯には、曲線的な山形に斜位の文様が交差する縄線文が施文される。胴部には結束第2種の斜行縄文が1条と、条間が広い多軸絡条体の回転文が施される。294はMBPO-14出土で、胴部から底部までが復元され、口縁部片は図上で推定復元した。口縁部は平縁で、わずかに外反し、屈曲せずに胴部へと続く、胴部の上位は直線的で、底部付近で急速にすばまる。底部は上げ底である。口唇部直下には縄文、その下位には横位と矢羽根状の文様の縄線文が施文され、結束第2種の羽状縄文が巡る。胴部には燃糸文が施される。295・296はMBPO

ー15出土の復元土器である。295は口縁部が平縁で外反し、胴部との境は張り出し、そこから底部まで斜めにすばまる器形である。底部は平底である。口唇部直下には縄の圧痕が施文され、無文地の文様帯には菱形が連続する縄線文が施される。胴部には結束第2種の斜行縄文が1条と多軸絡条体の回転文が施される。296は内傾気味で平縁の口縁部があり、胴部との境には弱い段がつき、胴部はやや膨らむ筒状の器形である。底部はわずかに上げ底である。口唇部は摩耗し、文様は不明瞭で、無文地の文様帯には、緩い山形の縄線文がみられる。胴部には結束第2種の羽状縄文が1条と、条間があく多軸絡条体の回転文が施される。297はMBPO-17出土である。口縁部は平縁で、無文地の文様帯はやや肥厚するようにみえる。胴部はやや胴が張り、下半から底部へと緩やかにすばまる。底部はわずかに上げ底である。口唇部には縄文が施され、幅1.5cmと狭い無文地の文様帯には4条の縄線文が巡る。胴部には条間が広い自縄自巻の縄文と結束第1種の羽状縄文が交互に底部まで施される。298～300はMBPO-18出土である。298は器高約43cm、口径約33cmと大型で、幅広い器形である。口縁部は、ごく緩やかな波状で外反し、文様帯下端は肩状に張り出す。胴部は筒形で、底部まで緩やかにすばまる。底部はやや上げ底である。口唇部直下には縄の圧痕があり、無文地の文様帯には6つの緩やかな山形の縄線文が施文される。文様帯下端には薄い隆帯が走り、その上に横長の刺突文が押捺される。胴部には軸跡が残る多軸絡条体の回転文が施され、胴部上位には3段の結束第2種の羽状縄文が加えられる。内面は磨かれ、炭化物が広く付着する。299は口縁部が平縁で直立気味である。そこから屈曲し肩状に張り出し、胴部はなだらかにすばまる器形である。口唇部直下には縄の圧痕が斜めに押捺され、無文地の文様帯には縄縁で矢羽根状の文様が施文される。胴部には綾絡文と多軸絡条体の回転文が施される。300は口縁付近から底部までの復元で、文様帯下端がやや張り出し、胴部は筒状である。無文地の文様帯には斜位・横位の縄線文がみられ、胴部には結束第1種の羽状縄文が1段と燃糸文が施される。

301・302はMBPO-19出土の同一個体である。301は底径が推定で20cmを超える大型の器形の底部で、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。302は口縁部片で山形の縄線文が施される。303はMBPO-21出土の口縁部片で、外反し肩状の張り出しがある。無文地の文様帯には菱形の縄線文が施され、胴部の文様は剥落し不明である。304はMBPO-22出土である。口縁部は平縁で、わずかに外反し、そこから斜めにすばまる筒状の器形である。底部はわずかに上げ底で、全体に厚手である。口唇部断面は丸みを帯び、口唇部直下には縄文が施される。無文地の文様帯には横位と斜位の縄線文が施文され、胴部には燃糸文と結束第2種の羽状縄文（上位では2段一組）が交互に整然と施文される。内面は丁寧にナデ調整される。305はMBPO-23出土の胴部から底部までの復元土器で、燃糸文が施される。胎土には礫を含む。306はMBPO-24出土の器高約19cmの小型の筒状土器である。口縁部は平縁で、口唇部断面はやや尖る。底部は上げ底である。口唇部直下には結束第1種の羽状縄文が1段走り、胴部には自縄自巻の縄文が施される。307はMBPO-25にMBPO-8が数点接合した。口縁部は平縁で、胴部は底部付近で曲線的にすばまる筒形の器形である。口唇部断面は丸みを帯び、口唇部直下には縄文が施文される。無文地の文様帯には緩い山形の縄線文が施され、細い微隆帯によって区画される。胴部には結束第2種の羽状縄文が1段走り、その下位に燃糸文が施される。308はMBPO-26出土で、口縁部が平縁で、わずかに外反し、文様帯下端は肩状に張り出す。胴部は筒形で胴部上位がわずかに張る器形である。口唇部直下には縄文、無文地の文様帯には曲線的な緩やかな山形や三角形の縄線文がみられる。胴部との境には横位の刺突文が走り、胴部には自縄自巻の縄文が縦行する。胴部上半には3段の結束第2種の羽状縄文が加えられる。309はMBPO-27出土である。口縁部は緩やかな波状で、文様帯下位には肩状の張り出しがあり、胴部はやや膨らむ筒状の器形である。底部は上げ底である。口唇部断面は丸みを帯び、その直下には縄の圧痕が斜めに押捺される。無文地の文様帯には山形の縄線文がやや簡素に施文される。文様帯下位には結束第2種の羽状縄文が1段走り、胴部には燃糸文が施される。内面は磨かれる。310はMBPO-28出土の口縁部から胴部の厚手の復

元土器である。口縁部は緩やかな4波状で外反し、文様帯下端で肩状に張り出し、胴部へと膨らむ器形である。口唇部断面は丸みを帯び、その直下には縄が斜めに押捺され、無文地の文様帯には菱形の構成の縄線文が施文される。文様帯下端には斜位の刺突文と縄線文が横断する。胴部には結束第2種の羽状縄文が1段巡り、やや条間が広い燃糸文が施文される。一部に器面調整の横位の貝殻条痕が残る。

311はMBPO-29出土の口縁部片で、無文地の文様帯に2本一組の原体の縄線文が4条間隔を開けて施され、胴部には自縄自巻の縄文が施される。312はMBPO-30出土で、口縁部から胴部下位まで復元された。口縁部は平縁で外反し、文様帯下端は鋭角に張り出し、胴部は筒状の器形である。口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には矢羽根状の文様構成の縄線文が施文される。肩状の張り出し部には2条の縄線文間に縄の圧痕が斜位に刻まれる。胴部には結束第2種の羽状縄文が1段巡り、その下位は多軸絡条体の回転文である。313・314はMBPO-32出土の同一個体の胴部・底部片である。胴部には器面調整の貝殻条痕が広く残り、U字状の縄の圧痕文と結束第1種の羽状縄文が確認できる。底部は平底である。315はMBPO-33出土である。口縁部は平縁でやや外反し、文様帯下端にはわずかに段が付き、そこから底部へと斜めに緩やかにすばまる筒状の器形である。無文地の文様帯には山形に斜位の縄線を充填する文様が施文され、文様帯下端には横位の縄線文が1条巡る。胴部には器面調整の貝殻条痕が広く残り、その上から燃糸文が施文され、胴部の上位には結束第2種の羽状縄文が4段加えられる。内面は磨かれる。316はMBPO-34出土で、口縁部から胴部まで復元し、接合しなかった底部は図上で合わせた。口縁部は平縁で、やや内傾気味である。文様帯下端は屈曲して張り出し、胴部は筒状である。無文地の文様帯には4つの横長の菱形の縄線文が施文される。胴部には燃糸文が施され、胴部上半には結束第1種の羽状縄文が4段巡る。内面も含め、全体に摩耗する。317はMBPO-35出土で、口縁部付近から底部まで復元された筒形の土器である。無文地の文様帯は横位2条の縄線文で区画され、斜位の縄線文がみられる。胴部は燃糸文である。内面は摩耗や剥落が激しい。318・319はMBPO-38出土である。318は器高約13cmの小型の筒型土器である。口縁部は平縁で、文様帯下端はわずかに張り出し、斜めに底部まですばまる器形である。無文地の文様帯には矢羽根状の文様の縄線文が対向するようである。胴部には燃糸文が施される。319は口縁部が緩やかな波状で、やや外反する。文様帯下端ではわずかに張り出し、胴部は筒状で、底部付近で丸みを持ってすばまる器形である。無文地の文様帯には山形が交差する構成の縄線文が施文され、胴部には細い原体の燃糸文と結束第2種の羽状縄文が多段に施文される。内面はナデ調整される。320はMBPO-39にMBPO-38が接合した土器である。平縁で、筒状の器形で、底部は上げ底である。無文地の文様帯には3条の横位縄線文、綾絡文2条が施文される。胴部には縄文が縦行し、結束第1種の羽状縄文が多段に加えられる。内外面とも摩耗が激しく、胎土の礫が露出する。

321はMBPO-39出土の大型土器である。口縁部は平縁で外反し、胴部は筒状で底部へと緩やかにすばまる器形である。無文地の文様帯には横位の縄線文が4条施文され、文様帯直下には刺突文がある細い隆帯が巡る。胴部には燃糸文が施され、内面はナデ調整される。322はMBPO-39とMBPO-30が接合した口縁部から胴部の復元土器である。器形は口縁部が平縁で、胴部が筒状である。口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には横位の縄線文が施文される。その下位には結束第1種の羽状縄文が1段巡り、胴部には縄文が縦行する。324はMBPO-40出土の土器である。口縁部は緩やかな4波状で、文様帯下端はわずかに張り出す。胴部は筒状で、底部付近で丸みを持ってすばまる器形である。無文地の文様帯には菱形の文様構成の縄線文が施され、その下位には結束第1種の羽状縄文が1段巡る。胴部は摩耗が激しいが、多軸絡条体の回転文がみられる。323はMBPO-41出土の土器である。口縁部は平縁で、文様帯下端部はやや張り出し、胴部はやや膨らみ底部へとすばまる器形である。無文地の文様帯には矢羽根状の構成の縄線文が施文され、下位は横位の縄線文2条で区画される。胴部には2条一組の矢羽状の原体の燃糸文が施され、

結束第2種の羽状縄文が3段加えられる。

325～336は盛土出土の復元土器である。325・335は盛土最下層、328・329は盛土下層、326・327・330～334・336は盛土層出土である。

325は口縁部が平縁で、口縁部から底部へと斜めにすばまる筒状の器形である。無文地の文様帯には横位の縄線文が2条と綾絡文が3条横置き、その下位に結束第1種の羽状縄文が1段巡る。胴部は撚り戻しの縄文が縦行する。円筒土器下層c式である。326は小型の土器で、摩耗して文様ははっきりしない。胴部には自縄自巻の縄文が縦行する。327～329は口縁部がやや外反し、文様帯下部がわずかに張り出し、胴部から底部へと緩やかにすばまる筒状の器形である。いずれも胴部には結束羽状縄文と燃糸文が施される。口縁部は327が平縁、328・329がわずかに波状で、無文地の文様帯には山形(327・328)や菱形(329)の縄線文が施文され、文様帯下端に微隆帯が貼り付けられる。内面は丁寧にナデ調整される。327は胴部に結束第2種の羽状縄文1段と条間が広い燃糸文が施される。328は口唇部に縄文が施文され、胴部には燃糸文と結束第2種羽状縄文が多段に施される。329は微隆帯上に横長の刺突文が施文され、その下位には結束第1種の羽状縄文が1段巡る。

330～335は口唇部断面が丸みを帯び、口縁部は平縁で外反するもので、文様帯の直下には肩状の張り出しが明瞭で、胴部は下半から丸みを持ってすばまる筒状の器形である。文様は、口唇部直下には330が縄文、それ以外は縄の圧痕が斜めに押捺され、無文地の文様帯には横位と矢羽根状の文様2段(330・331)、山形(332・333)、横位と斜位(334・335)の縄線文が施文され、文様構成が2段になるもの(330・331・334・335)がある。文様帯下位には結束第2種の羽状縄文が施され、胴部には多軸絡条体の回転文が施されるものが多い。内面は磨かれる。330は胴部に条間があいた細い原体の多軸絡条体の回転文が整然と施され、横位に残る軸跡も文様構成のひとつとなっている。331は330と同様の文様帯の構成で、胴部には結束第2種の斜縄文が巡る。332は文様帯の文様構成が、山形が崩れ、斜位と横位の構成になる。胴部には燃糸文が施され、その上位には結束第2種の羽状縄文が3段加えられる。333は推定の器高が約40cmの大型の土器で、肩状の張り出し部分には縄の圧痕が縦位に押捺される。334・335は同様の文様構成である。334は器外面の摩耗が激しく、335は炭化物が付着する。336は胴部から底部の復元土器である。上げ底で、胴部には自縄自巻の原体の縄文と多段の結束第2種の羽状縄文が施文される。

337～348は口縁部の破片土器である。337～340は円筒土器下層c式で、口縁部は外反する。337と338は同一個体で、地文には羽状縄文が施され、胴部では対向する部分がある。口唇部直下と隆帯直上には縄線文が横位に施文され、隆帯は剥がれるが、刺突文の痕跡が残る。339は横位と縦位の縄線文が貝殻条痕文地に施文され、胴部は斜行縄文である。340は外反する口縁部で、刺突文を伴う微隆帯が2条みられる。口縁部文様帯には縄線文、胴部には結束第1種の羽状縄文が1段と多軸絡条体の回転文が施される。341～345は円筒土器下層d1式である。いずれも平縁で、口唇部は縄文(341・344)、縄の圧痕(345)もしくは無文、無文地の文様帯には斜位(345)、横位の縄線文が施文される。胴部には結束羽状縄文と燃糸文(342・345)、自縄自巻の縄文(341・343・344)が施される。341は文様帯が肥厚気味で、2本一組の縄線文間に横長の刺突文がみられる。344は幅1.2cmの文様帯直下に微隆帯が施される。345は文様帯に2本一組の縄線文が密に施される。346～348は円筒土器下層d2式で、厚手で、口縁部は外反し、肩状の張り出しがある。口唇部直下には縄文(347)、縄の圧痕(346・348)があり、横位と矢羽根状の文様(346)、横位(347)、菱形(348)の縄線文が施文される。胴部には結束第2種の羽状縄文が施される。347は文様帯に横長の孔が穿たれる。348は胴部に多軸絡条体の回転文が施される。

盛土遺構C (MC)

349～367はMC出土である。円筒土器下層d1式から円筒土器下層d2式の土器があり、円筒土器下層

d 2 式が主体である。MC の土器集中MCPO-1～6 出土の土器、盛土出土の土器の順で述べる。

353～355・358～360・362 は円筒土器下層 d 1 式、349～352・356・357・361・363～367 は円筒土器下層 d 2 式である。

349 はMCPO-1 出土である。口縁部は平縁で直立気味で、文様帯下端の肩状の張り出しへと屈曲する。胴部には膨らみ、底部へと丸みを持ってすぼまる。厚手で、口径よりも肩状の張り出し部分が広い器形である。口唇部直下と張り出し部分には縄の圧痕、無文地の文様帯には菱形の縄線文が施文され、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。350～352 はMCPO-2 出土の口縁部片で、外反し、文様帯下部が肩状に張り出す。口唇部直下には縄の圧痕(350・351)や絡条体圧痕(352)、文様帯には山形(350)、矢羽根状の文様(351)、斜位と横位(352)の縄線文が施文される。いずれも胴部上部には結束第2種の羽状縄文が1段巡り、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。内面は磨かれる。353 はMCPO-3 出土の口縁部片で、口縁部は平縁で、直立気味である。無文地の文様帯には菱形の縄線文が施文され、その下位に微隆帯が施される。胴部には2本一組の燃糸文が施され、内面は磨かれる。354・355 はMCPO-4 出土の薄手の口縁部片で、口縁部はいずれも直立し、口唇部断面は尖り気味である。無文地の文様帯には菱形(354)、山形? (355)の縄線文が施文され、刺突文がある微隆帯が施される。胴部には燃糸文が施される。356・357 はMCPO-5 出土の同一個体である。無文地の文様帯に横位や波形、斜位の縄線文が施文され、胴部には多軸絡条体の回転文が施される。いずれも炭化物が付着する。358～360 はMCPO-6 出土である。358 は口縁部が平縁で、やや外反する。胴部は中央でやや張り、そこから底部へと緩やかにすぼまる器形で、底部は上げ底である。口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には細い原体の横位と菱形の縄線文が施され、その直下には微隆帯が貼り付けられる。胴部上半には2本一組の矢羽根状の燃糸文、下半には単軸絡条体1類の燃糸文が施され、胴部上半には結束第2種の羽状縄文が3段加えられる。器面には貝殻の横位の調整痕が広くみられ、内面はよくナゲ調整される。359 は口縁部が平縁で、口縁部から底部にかけて緩やかにすぼまる筒形の器形で、底部は上げ底である。無文地の文様帯は摩耗するが幅1.5cm程で、横位の縄線文が施されるようである。胴部には結束第2種の羽状縄文と燃糸文が交互に多段に施される。360 は口縁部片で、横位と斜位の組合せの縄線文が多段に施文され、炭化物が付着する。

361・362 はMC盛土出土の復元土器である。361 は口縁部が平縁で外反し、文様帯下部は肩状に張り出し、胴部には膨らみを持ち底部へとすぼまる器形である。肩状の張り出しと胴部上半は口径よりも広い。底部はわずかに上げ底である。口唇部直下には縄の圧痕、無文地の文様帯には曲線的な緩い山形、菱形、円弧など多様な縄線文で2段に文様が構成される。胴部には結束第2種の羽状縄文が4段巡り、多軸絡条体の回転文が施される。362 は口縁部が平縁で外反する筒形の器形である。口唇部直下に斜めの縄の圧痕があり、無文地の文様帯には菱形の縄線文が施文され、その直下に非常に薄い微隆帯が巡る。胴部には燃糸文と多段の結束第2種羽状縄文がみられる。

363～367 はMC盛土出土の破片土器である。363 は無文地の文様帯に細い原体の縄線文が5条施文され、胴部には結束第2種の羽状縄文がみられる。内面は磨かれる。364・365 は同一個体である。文様帯には曲線的な菱形、斜位の縄線文が施文され、胴部には燃糸文が施され、下位には綾絡文や貝殻調整痕がみられる。底部はやや上げ底である。366 はH-7 出土の破片と接合した。口唇部と肩状の張り出し部分に縄の圧痕、無文地の文様帯には曲線的な山形の縄線文が施文される。胴部には結束第2種の羽状縄文と細い原体の燃糸文が施される。367 は高台部分の無文の破片で、透かし孔がある。

盛土遺構D (MD)

368～375 はMD出土の破片土器で、368・369 は円筒土器下層 d 1 式、それ以外は円筒土器下層 d 2 式である。

368 は地文に燃糸文が施され、文様帯には横位の縄線文が6条施文される。369～371は口縁部片で、外反し肩状に張り出す器形である。無文地の文様帯には菱形の縄線文が施文され、張り出し部の下位には結束第2種の羽状縄文が施される。胴部には燃糸文(370)、多軸絡条体の回転文(369・371)が施される。371・372は同一個体で、底部付近で曲線的にすばまる器形である。373・374・375は同一個体で、台付の深鉢土器である。文様帯には斜位と横位の縄線文、胴部から高台部分には多軸絡条体の回転文が施され、胴部上半には結束第2種の羽状縄文が多段にみられる。

(2) 包含層の土器 (図V-36-1～17 表V-5・6)

包含層の土器は5,523点出土した。内訳はⅡ群b類土器5,230点、Ⅲ群a類土器173点、Ⅲ群b類土器2点、Ⅳ群土器66点、土製品52点である。土製品はすべて焼成粘土塊である。

Ⅱ群b類土器

1～9はⅡ群b類土器である。1は円筒土器下層d1式の復元土器である。口縁部は平縁で直立気味である。文様帯直下には微隆帯が巡り、肩状に張り出すようにみえる。胴部は直線的な筒状である。無文地の文様帯には曲線的な山形の文様に斜位の縄線を充填する縄線文が施文され、その直下の微隆帯には横位の縄線文が押捺される。隆帯の下位に結束第2種の羽状縄文が1段巡り、胴部には矢羽状の燃糸文が上半部と下半部とで向きを変えて施される。2～7は円筒土器下層c式の破片土器で、口縁部は外反し、波状(2・5)となるものがある。文様は縦位(2・3・5・7)、菱形(2・5)の縄線文が施文される。2は文様帯が無文地で、それ以外は胴部と同じ原体の地文である。3・4は同一個体で、矢羽状の縄線文が施文され、燃り戻しの縄文が口縁部では横走、胴部では縦行する。5～7は地文に斜行縄文が施される。5は薄手で文様帯が広い。6はごく薄い微隆帯があり、その上から横長の刺突文が施される。8・9は円筒土器下層d1式で、いずれも口縁部は外反し、肩状の張り出しがある器形である。無文地に山形(8)、矢羽根状の文様2段(9)の縄線文が施文され、文様帯直下には結束羽状縄文が巡る。胴部には燃糸文が施される。8は口唇部直下に2つ、肩状の張り出し部分に1段の刺突文がみられ、内面は磨かれる。

Ⅲ群a土器

10～14はⅢ群a類土器である。10～12は細い貼付がみられるものである。10は縄による刻みがある貼付があり、器面には半裁竹管状の工具による刺突文が充填される。11は断面三角形の口縁部片で、縄の圧痕がある細い貼付が鋸歯状、円弧上に施され、器面には馬蹄形圧痕文が充填される。12の貼付には縄文が施文される。13・14は底部で結束第1種の羽状縄文が施される。14は平底で無文である。

Ⅳ群土器

15～17はⅣ群土器である。15・16は縄文が施文された貼付帯が横位にみられるもので、いずれも貼付帯上と地文とでは向きを変えて施文される。15は口唇部断面が角型である。17は縄文地に細い粘土紐が横位や三角状に貼り付けられる。

(愛場)

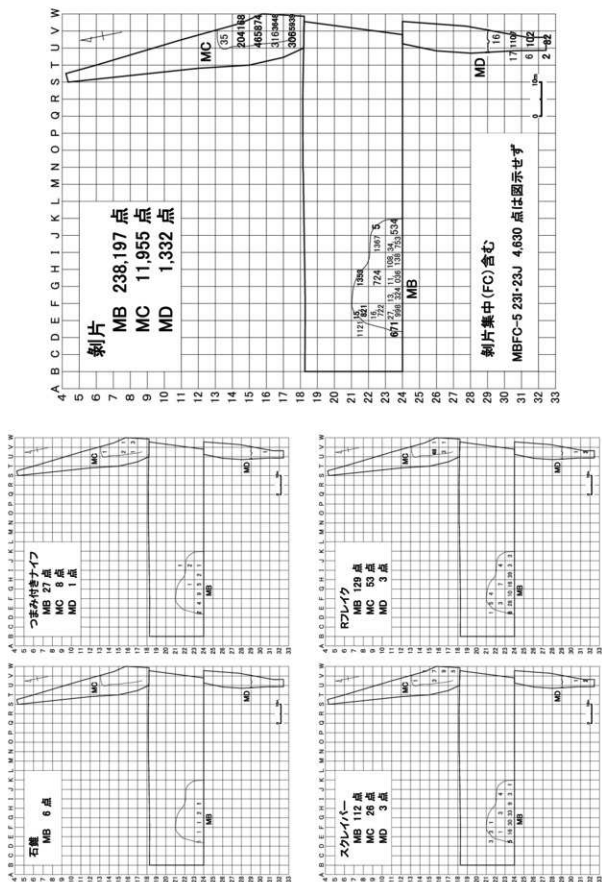


図 V-2 盛土の遺物分布図 (2)

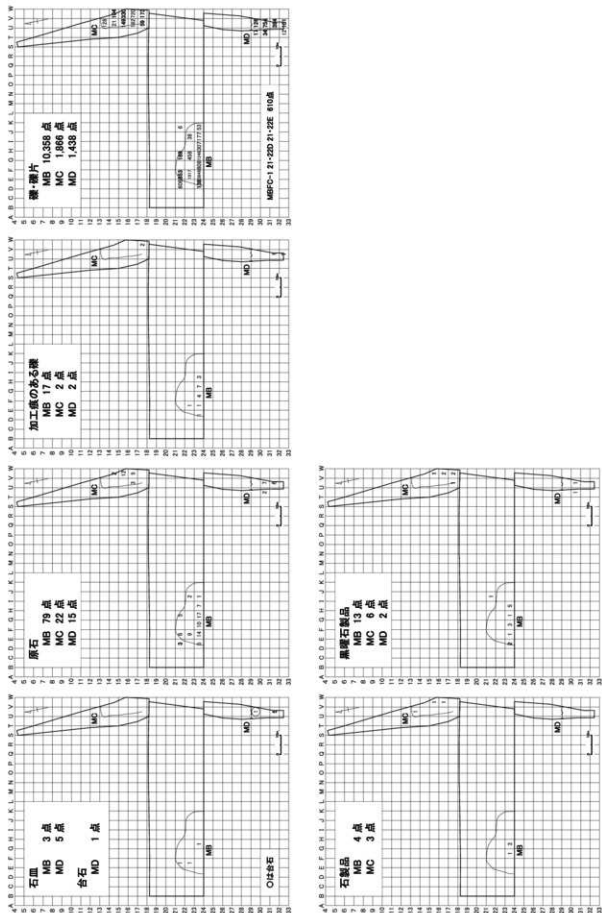


図 V-4 盛土の遺物分布図 (4)

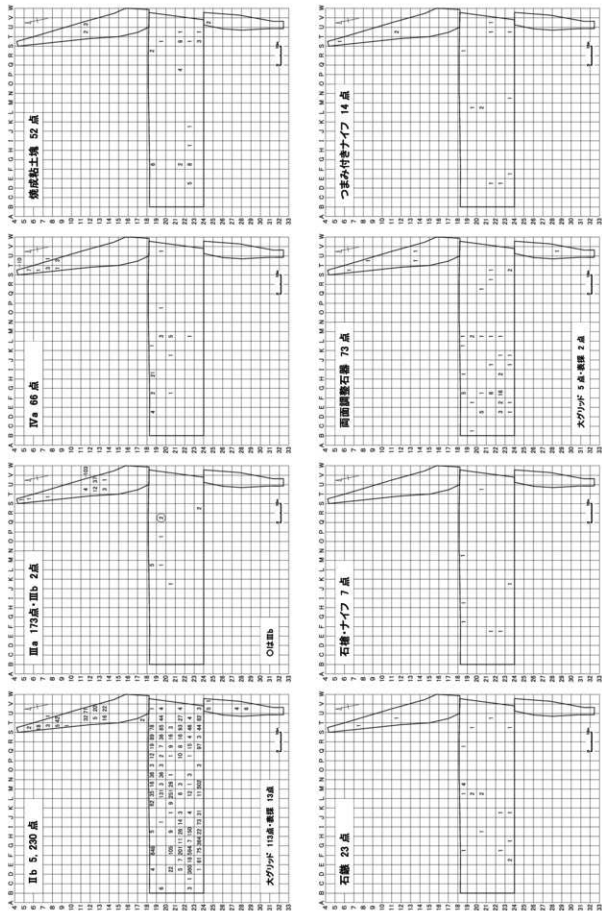


図 V-5 包含層の遺物分布図 (1)

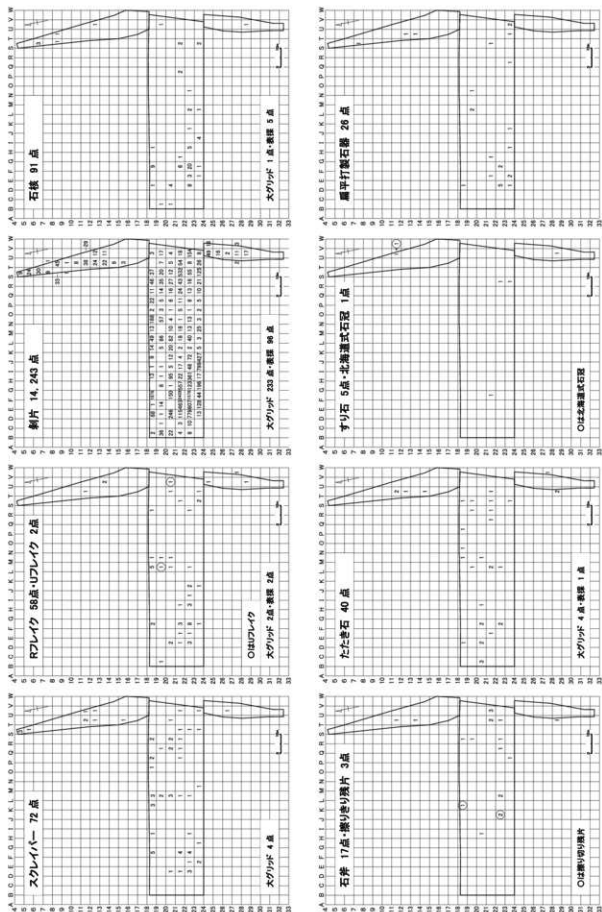


図 V-6 包含層の遺物分布図 (2)

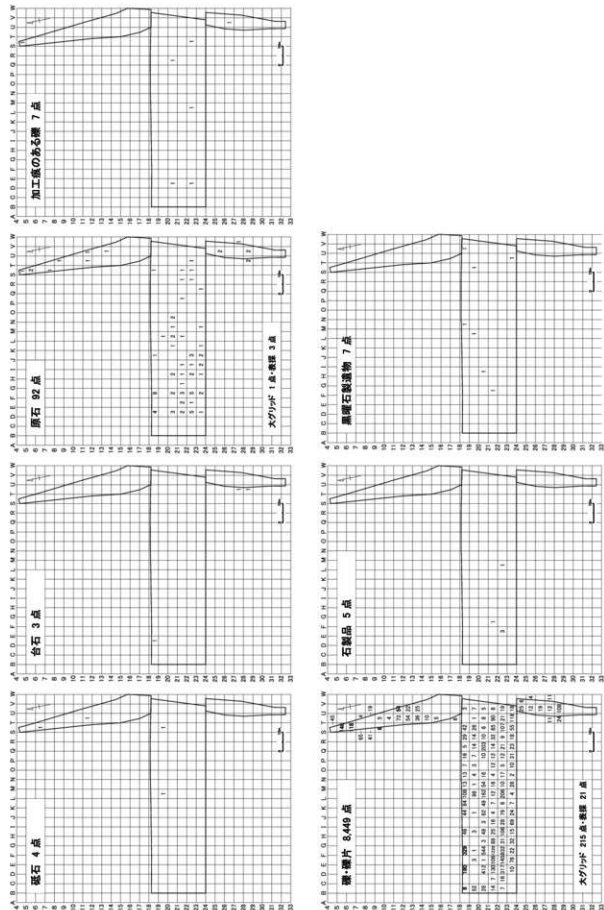
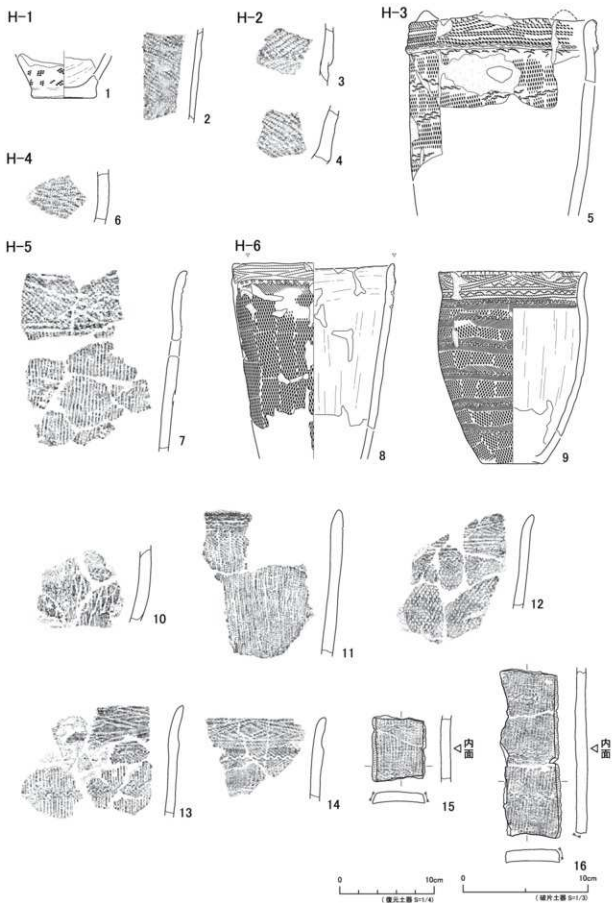
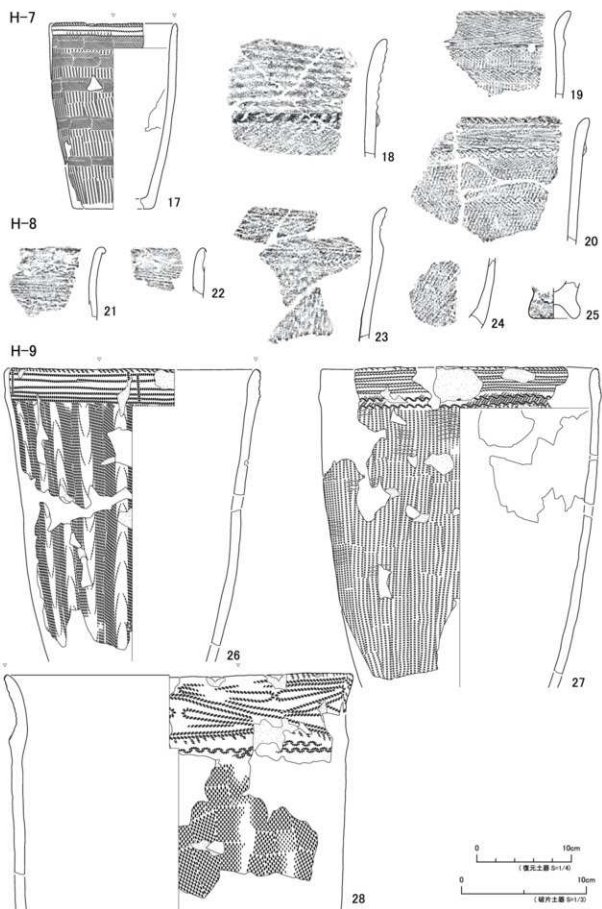


図 V-7 包含層の遺物分布図 (3)

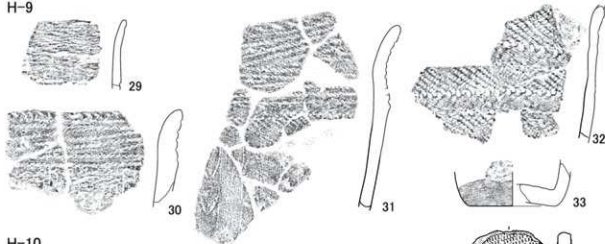


図V-8 竪穴住居跡出土の土器(1)



図V-9 竪穴住居跡出土の土器(2)

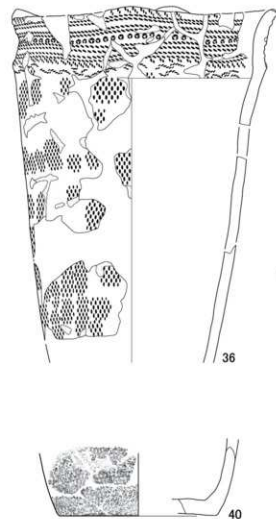
H-9



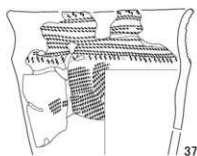
H-10



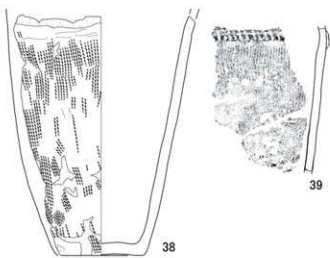
P-1



P-1・3

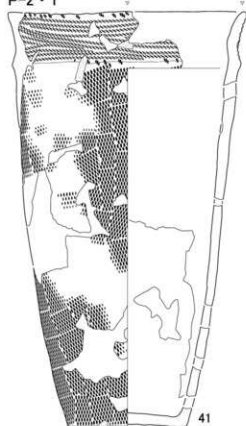


P-1・3



図V-10 竪穴住居跡出土の土器等(3)・土坑出土の土器(1)

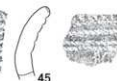
P-2・1



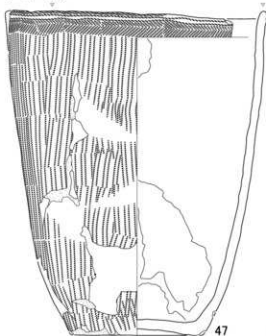
P-2



P-3



P-4・49



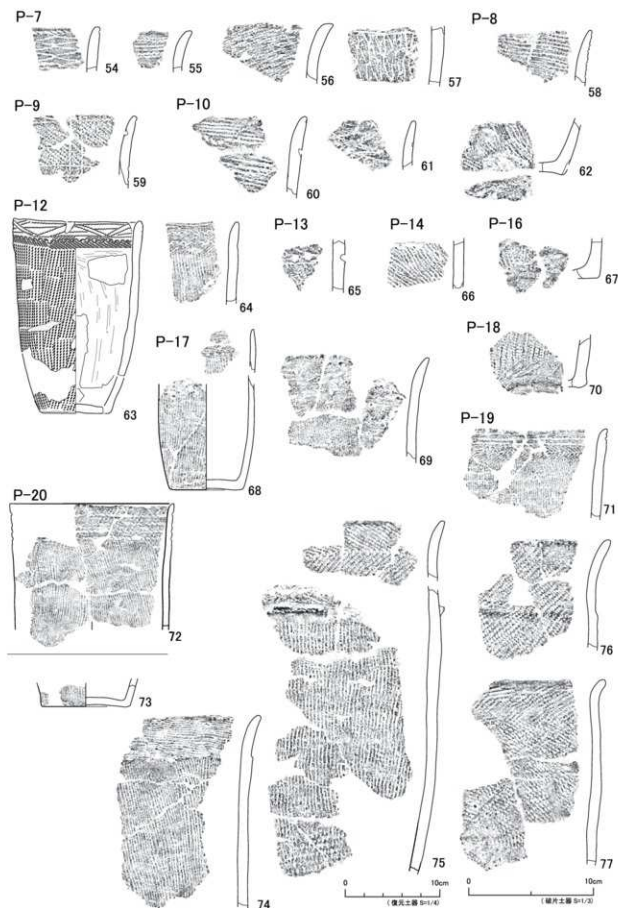
P-6



0 10cm
(復元土器 S=1/4)

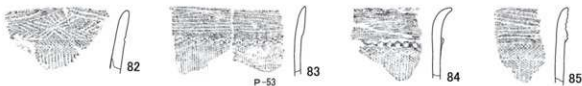
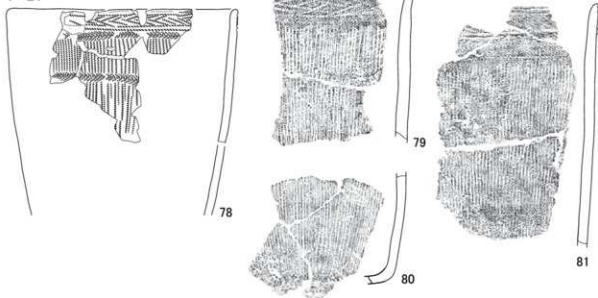
0 10cm
(復元土器 S=1/2)

図V-11 土坑出土の土器(2)

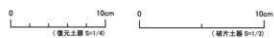
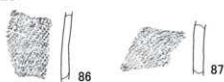


図V-12 土坑出土の土器(3)

P-21

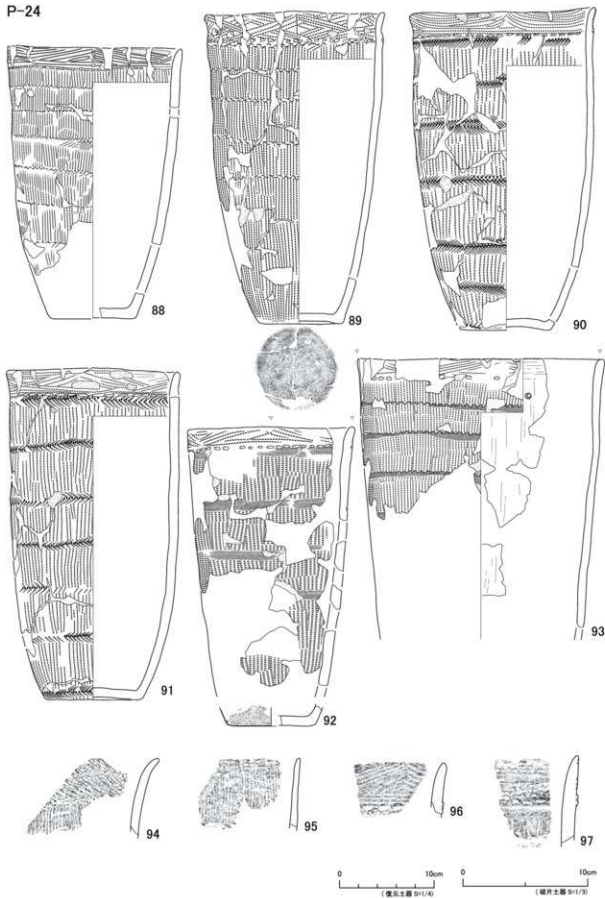


P-23



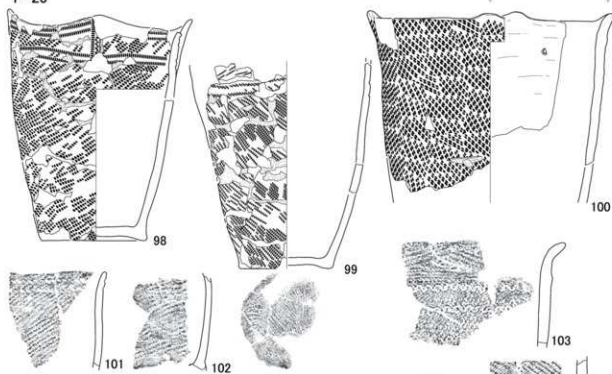
図V-13 土坑出土の土器(4)

P-24

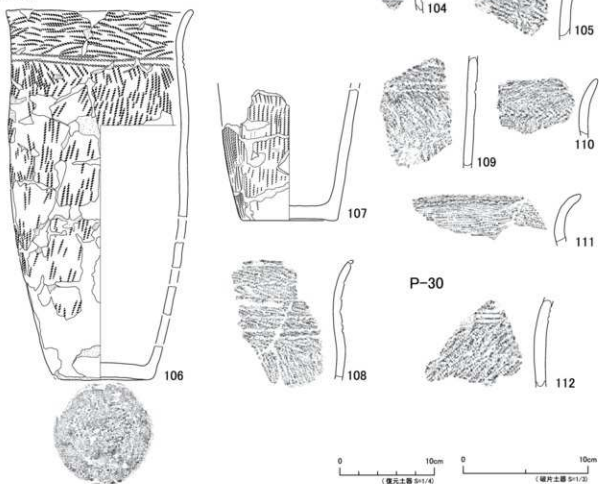


図V-14 土坑出土の土器(5)

P-25

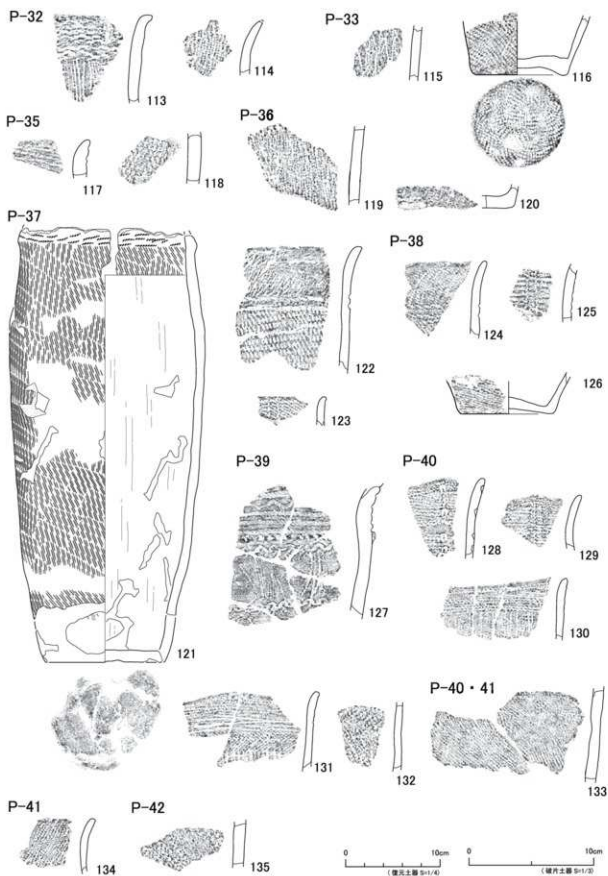


P-29

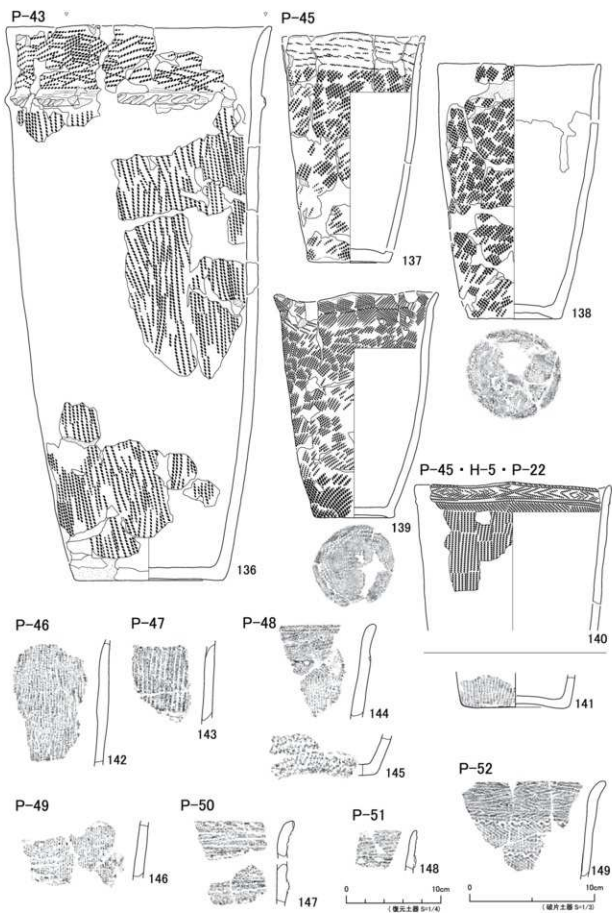


P-30

図V-15 土坑出土の土器(6)

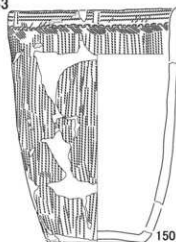


図V-16 土坑出土の土器(7)

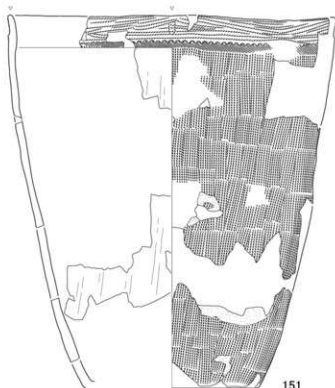


図V-17 土坑出土の土器(8)

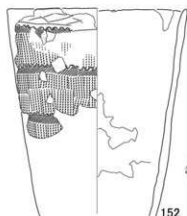
P-53



150



151



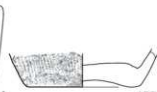
152



153

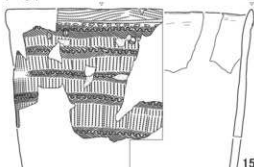


154



155

P-54



156



157



158

P-55



159

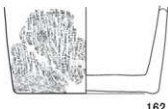
P-56



160



161



162

0 10cm

(復元土器 S-1/4)

0 10cm

(破片土器 S-1/2)

図V-18 土坑出土の土器(9)